2010年度 第1回インフォメーションミーティング

2010年6月1日（火）

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社

目次

MS&AD INSURANCE GROUP

2009年度決算の概要および2010年度通期見込

2009年度決算の概要(MS&ADインシュアランスグループの単純合算値)	1
2010年度決算・通期見込(MS&ADホールディングス(連結))	2

MS＆ADインシュアランスグループの戦略

グループの状況

グループの構成	5
コーポレート・ガバナンス	6
国内外でのポジション	7

グループ戦略／全般

中期的到達目標(経営数値目標)達成に向けて	9
統合コストとシナジー効果の見通し	10
主な共同取組の進捗状況(1)	11
主な共同取組の進捗状況(2)	12
ITシステム／現行システムの優位性(1)	13
ITシステム／現行システムの優位性(2)	14
新システムの目指す姿	15
システム統合スケジュール	16

グループ戦略／国内損保事業

国内損保事業の基本戦略	18
国内損保市場における当社グループのポジション	19
国内損保市場における当社グループの強み	20
収益拡大に向けて(トヨタ自動車・日本生命マーケット開拓):あいおいニッセイ同和損保	21
収益拡大に向けて(生保営業職員チャネル強化と更なる活性化):三井住友海上	22
収益拡大に向けて(販売イノベーションの取組)	23
収益拡大に向けて(通販マーケット):三井ダイレクト損保	24
損害率・事業費率の状況	25
自動車保険の損害率改善に向けて(三井住友海上)	26
自動車保険の損害率改善に向けて(あいおい損保・ニッセイ同和損保)	27
資産運用の状況(三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保　合算数値)	28

グループ戦略／国内生保事業

国内生保事業環境と事業戦略	30
三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の合併について	31
合併生保新会社の基本戦略	32
エンベディッド・バリューの推移(三井住友海上きらめき生命とあいおい生命)	33
三井住友海上メットライフ生命	34
エンベディッド・バリューの推移(三井住友海上メットライフ生命)	35

グループ戦略／海外事業

業績推移	37
MS＆ADインシュアランスグループの海外ネットワーク	38
成長モデルの更なる展開	39
アジアでのトップクラスの事業基盤・優位性を活用し、更なる成長へ	40

資本政策

リスク／資本管理態勢	42
資本政策と株主還元(1)	43
資本政策と株主還元(2)	44
資本政策と株主還元(3)	45

MS＆ADニューフロンティア2013

MS&AD
INSURANCE GROUP

2009年度決算の概要および2010年度通期見込

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・MS＆ADホールディングス　（＝MS＆ADインシュアランス グループ ホールディングス㈱）
- ・MSIG　（＝三井住友海上グループホールディングス㈱）
- ・三井住友海上　（＝三井住友海上火災保険㈱）
- ・あいおい損保　（＝あいおい損害保険㈱）
- ・ニッセイ同和損保　（＝ニッセイ同和損害保険㈱）
- ・三井ダイレクト損保　（＝三井ダイレクト損害保険㈱）
- ・三井住友海上きらめき生命　（＝三井住友海上きらめき生命保険㈱）
- ・あいおい生命　（＝あいおい生命保険㈱）
- ・三井住友海上メットライフ生命（＝三井住友海上メットライフ生命保険㈱）

また、あいおい損保とニッセイ同和損保の合併(2010年10月を予定)による新会社(あいおいニッセイ同和損害保険㈱)については、「あいおいニッセイ同和損保」の略称で記載している箇所があります。

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS＆ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、 (4)税制など諸制度の変更、などがあります。

2009年度決算の概要（MS&ADインシュアランス グループの単純合算値）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2008年度	2009年度		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,910	25,190	△ 720	△ 2.8%
経常利益	△ 529	991	1,520	-
当期純利益	△ 94	573	668	-

※三井住友海上グループホールディングス（連結）、あいおい損保（連結）、ニッセイ同和損保（単体）の単純合算値
「もどリッチファンド」（自動車保険「もどリッチ」（満期精算型払戻金特約付契約）の払戻充当保険料）を除いたベース　以下同じ

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2008年度	2009年度		
			前期比	増収率
三井住友海上（単体）	12,393	12,037	△ 356	△ 2.9%
海外事業子会社	1,819	1,587	△ 232	△ 12.8%
あいおい損保（単体）	8,166	7,940	△ 226	△ 2.8%
海外事業子会社	134	174	39	29.2%
ニッセイ同和損保（単体）	3,109	3,126	17	0.6%
三井ダイレクト損保	296	324	27	9.3%

※連結調整前ベース

当期純利益の内訳

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
三井住友海上（単体）	465	254	△ 211
海外事業子会社	△ 229	202	432
あいおい損保（単体）	△ 95	181	277
海外事業子会社	△ 31	△ 29	2
ニッセイ同和損保（単体）	△ 67	30	97
三井ダイレクト損保	△ 15	△ 6	8
三井住友海上きらめき生命	0	0	△ 0
あいおい生命	8	13	5
三井住友海上メットライフ生命	△ 44	44	89
その他	△ 9	6	16
連結調整等	△ 74	△ 123	△ 48

※子会社の利益は、出資持分ベース

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

2010年度決算・通期見込（MS&ADホールディングス(連結)）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2009年度	2010年度		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,190	25,800	610	2.4%
経常利益	991	860	△ 131	△ 13.2%
当期純利益	573	510	△ 63	△ 11.1%

※「前期比」は、前ページの3社グループ単純合算値との比較

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2009年度	2010年度		
			前期比	増収率
三井住友海上（単体）	12,037	12,280	243	2.0%
海外事業子会社	1,587	1,700	112	7.1%
あいおいニッセイ同和損保（単体）	11,067	11,230	163	1.5%
海外事業子会社	174	246	72	41.2%
三井ダイレクト損保	324	345	21	6.5%

※「あいおいニッセイ同和損保（単体）」は、あいおい損保（単体）とニッセイ同和損保（単体）の単純合算値

当期純利益の内訳

（億円）

	2009年度	2010年度	
			前期比
三井住友海上（単体）	254	260	5
海外事業子会社	202	164	△ 38
あいおいニッセイ同和損保（単体）	212	20	△ 192
海外事業子会社	△ 29	△ 14	15
三井ダイレクト損保	△ 6	0	7
三井住友海上きらめき生命	0	△ 28	△ 28
あいおい生命	13	5	△ 8
三井住友海上メットライフ生命	44	35	△ 9
その他	6	3	△ 3
連結調整等	△ 123	64	188

※子会社の利益は、出資持分ベース

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

MS＆ADインシュアランスグループの戦略

MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス株式会社

グループの状況

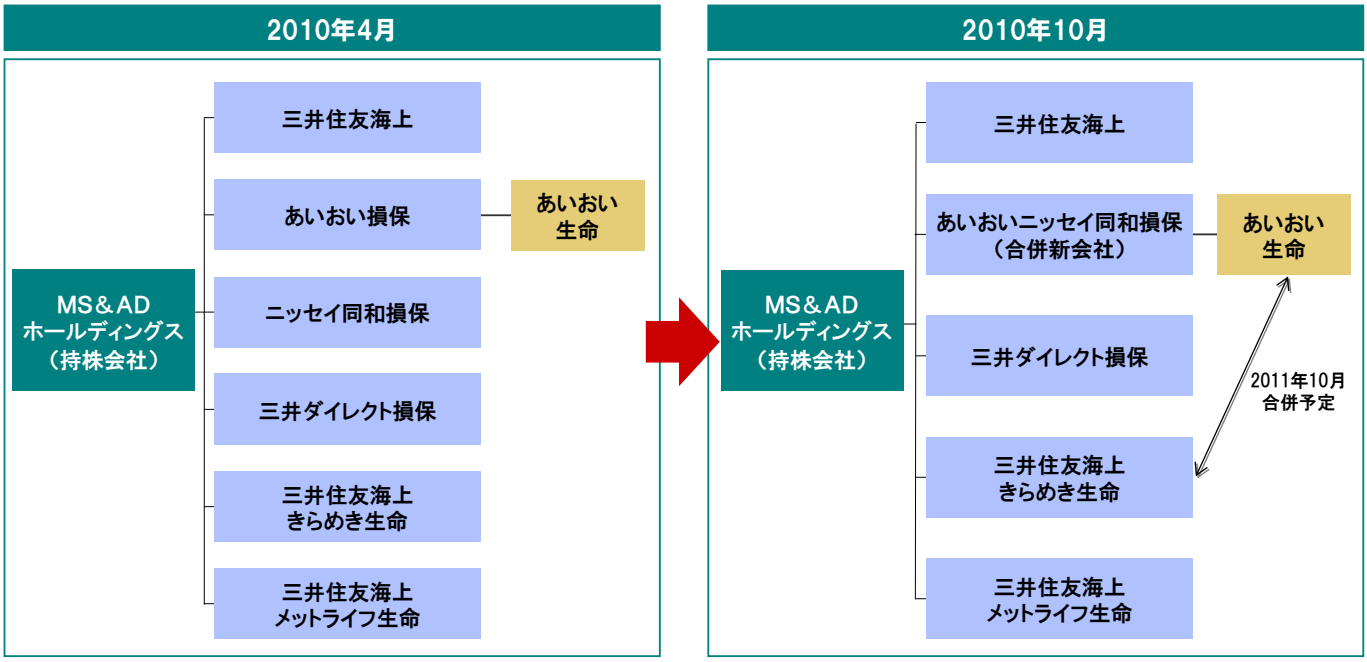
MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

グループの構成

MS&AD INSURANCE GROUP

■あいおい損保とニッセイ同和損保は2010年10月に合併予定
■三井住友海上きらめき生命とあいおい生命は2011年10月に合併予定
■三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保はグループとしての成長力・収益力を高めるため、
再編の方向性について、機能・分野別再編または更なる合併を含め、あらゆる選択肢を視野に入れ検討中



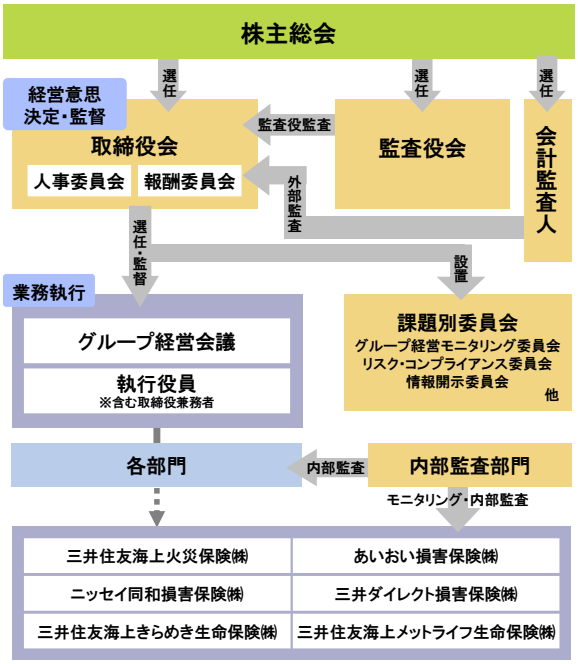
Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

コーポレート・ガバナンス

MS&AD INSURANCE GROUP

■透明性と牽制機能を備えたグループ経営体制の下、グループとしての企業価値向上を図っていく。

コーポレート・ガバナンス体制



- 執行役員制度を導入し、経営意思決定および監督を担う「取締役（会）」と業務執行を担う「執行役員」の役割を明確化
- 取締役13名の内4名、監査役5名の内3名を社外から選任：
  いずれも東証、名証、大証が定める要件を満たす「独立役員」
- 社外取締役※ は、法学者1名、企業倫理等の研究者1名、弁護士2名。社外監査役は、公認会計士1名、弁護士2名：
  いずれも豊富な知識・知見・経験を背景に、牽制機能を果たしている。
  ※2009年度は12回の取締役会が開催され、全ての社外取締役（当時、4名）が10回以上出席。
- 取締役会の内部委員会として、「人事委員会」「報酬委員会」を設置：
  各委員会とも、委員の過半数および委員長は社外取締役から選任。

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

国内外でのポジション

MS&AD INSURANCE GROUP

■2010年4月に3社経営統合により誕生した「MS&ADインシュアランスグループ」は収入保険料で世界トップ10の一角を占め(2009年度第7位)、国内で業界トップに。グループ各社の格付けも高水準にある。

グローバルでのポジション

【損保・収入保険料ランキング (2009年度)】

1. アリアンツ(独)	4. 76兆円
2. ステート・ファーム(米)	4. 57兆円
3. アクサ(仏)	3. 31兆円
4. AIG(米)	2. 86兆円
5. チューリッヒ(スイス)	2. 72兆円
6. リバティ・ミューチュアル(米)	2. 64兆円
7. MS&ADインシュアランスグループ	2. 52兆円

※各社の直近決算期の連結正味収入保険料を2010年3月31日時点の為替レートで換算
(出所: 各社決算資料)

国内損保業界でのポジション

【大手6社正味収入保険料 (2009年度)】

1. 東京海上HD	2兆2,929億円
2. 三井住友海上	1兆3,949億円
3. 損保ジャパン	1兆2,909億円
4. あいおい損保	8,114億円
5. 日本興亜損保	6,450億円
6. ニッセイ同和損保	3,126億円

1. MS&AD	2兆5,190億円
2. 東京海上HD	2兆2,929億円
3. NKSJ	1兆9,359億円

※連結ベース。ニッセイ同和損保は単体

グループ各社の格付け

格付会社	種類	三井住友海上	あいおい損保	ニッセイ同和損保	三井住友海上きらめき生命	あいおい生命	三井住友海上メットライフ生命
S&P	保険財務力格付け	AA−	AA−	AA−	AA−		AA−
ムーディーズ	保険財務格付け	Aa3	A1				
A.M.ベスト	財務力格付け	A+	A				
日本格付研究所(JCR)	長期優先債務格付け	AAA		AA+			
格付投資情報センター(R&I)	発行体格付け	AA	AA				
	保険金支払能力格付け				AA	AA	AA
フィッチ・レーティングス	保険会社財務格付け			A			

※2010年6月1日現在

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

【中期経営計画】MS&ADニューフロンティア2013

グループ戦略 / 全般

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

中期的到達目標（経営数値目標）達成に向けて

MS&AD INSURANCE GROUP

2013年度の数値は「MS＆ADニューフロンティア2013」に掲げる2013年度数値目標
2009年度はMSIG, あいおい損保、ニッセイ同和損保の合算値

目標事業ポートフォリオ

	2009年度［実績］	2010年度［見込］ ※2	2011年度［目標］	2013年度［目標］	2013年度［構成比］
グループ利益指標 ※1	338億円	約530億円	約800億円	1,500億円	
国内損保	199億円	約380億円	約500億円	1,000億円	67%
国内生保	58億円	※3 0億円	約80億円	150億円	10%
海外	131億円	約140億円	約170億円	300億円	20%
金融サービス／リスク関連サービス	△51億円	約10億円	約20億円	50億円	3%

※1：グループ利益指標「グループコア利益」：
連結当期利益－株式キャピタル損益（売却損益等）－クレジットデリバティブ評価損益－その他特殊要因＋非連結グループ会社持分利益
※2：2010年度 見込数値は10億円未満 四捨五入ベース
※3：2010年度 三井住友海上きらめき生命は標準責任準備金42億円の一括積立を見込む。

目標数値

	2009年度［実績］	2010年度［見込］	2011年度［目標］	2013年度［目標］
連結正味収入保険料	25,190億円	25,800億円	約26,000億円	27,000億円
生保 保有契約 年換算保険料 ※4	2,681億円	2,750億円	約2,900億円	3,300億円
グループROE ※5	2.0%	2.8%	約4%	7%

※4：2009年度および2010年度は三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の合算値（団体保険を除く）
※5：「グループROE」： グループコア利益÷期初・期末平均連結純資産（除く少数株主持分）

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

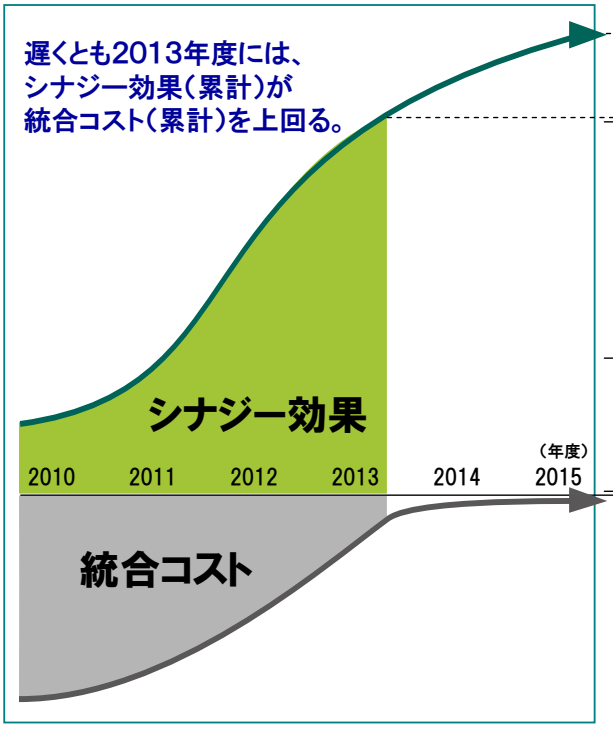
統合コストとシナジー効果の見通し

MS&AD INSURANCE GROUP

統合シナジー効果（2008年度対比）

－2013年度：年400億円以上、2015年度以降：年500億円規模を見込む－

遅くとも2013年度には、
シナジー効果（累計）が
統合コスト（累計）を上回る。



■2013年度の年間シナジー効果（2008年度対比）

年間計 400億円以上	
●システム統合によるシステム開発・運営コストの効率化	120億円
●営業拠点、損害サービス拠点の統合や不動産の有効活用 ●物流・印刷コストの効率化	100億円
●業務運営・態勢の見直し等による外注費・活動費・人件費等の効率化	150億円
●成長市場への経営資源の重点配分と緊密得意先マーケットの深耕 ●各社の引受・損害予防ノウハウ共有による損害率改善・海外ネットワークの相互活用等	50億円

コスト削減効果
相乗効果

■2015年度の年間シナジー効果（2008年度対比）

500億円規模
システム統合によるシステム開発・運営コストの効率化 200億円

統合コスト

システム統合等の一時的なコスト：累計で約700億円

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

主な共同取組の進捗状況（1）

MS&AD INSURANCE GROUP

■2009年9月発表の「共同取組」は、各領域において順調に進捗

主な共同取組			開始	状況
領域	内容	時期		
海外事業	グループ内元受ファシリティの相互活用による、商品・サービスの提供	2009年10月～	○	現地提携会社元受から三井住友海上現法元受に切替開始（ベトナム2010年4月～、マレーシア2010年5月～）
	グループ内海外子会社・関連会社への出向等人事交流を推進	2009年10月～	○	2009年11月,中国で1名出向（ニッセイ同和→三井住友海上） 2010年4月,マレーシアで1名出向（あいおい→三井住友海上）
事務・システム	業界をリードする新システムの共同構築	2013年 4月		合併会社システム（2010年10月稼動）と並行し、統合新システム（2013年4月稼動）を共同開発中
	新システムにおける事務共通化の実施	2013年 4月～		新システムの具体的設計と並行して、事務の共通化を検討中
	コンタクトセンター・システム基盤の共同利用	2012年 1月～		コンタクトセンター（お客さま相談窓口）のためのシステムの共同利用を見据え基盤を構築中
代理店教育システム・ツール	代理店教育制度における事前教育の共同実施	2010年 1月～	○	特級資格試験事前講習会を3ヶ所（札幌・広島・福岡）で共同開催（2010年1月）
	代理店教育ツールの共通化	2010年 4月～	○	「代理店コンプライアンスガイド」を3社共同で作成（2010年6月配布）
	代理店教育管理システムの共同利用	2010年10月～		コンテンツの一部を共同利用すべく検討中
商品・サービス	リスクコンサルティング会社のサービスプログラム共同利用	2009年10月～	○	三井住友海上、あいおい、ニッセイ同和と、㈱インターリスク総研による共同セミナーを開催（2010年5月）
	保険法対応の社員・代理店向け研修ツールの共同作成と研修等での活用	2009年 7月～	○	改正「保険法」の社員・代理店用研修ツールを共同作成し研修で活用
国際会計基準経理業務	国際会計基準への共同対応	2009年10月～	○	2009年10月より持株会社による国際会計基準対応への検討状況につきグループ内で共有、対策の研究を実施
	連結財務会計システム「グローバル経営管理システム」の活用	2010年 4月～	○	2010年度第1四半期から「グローバル経営管理システム」を活用した連結決算を実施
	経費計上システムの共通化	2011年 4月～		三井住友海上の新経費システムをベースに共通化を検討中

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

主な共同取組の進捗状況（2）

MS&AD INSURANCE GROUP

■2009年9月発表の「共同取組」は、各領域において順調に進捗

主な共同取組			開始	状況
領域	内容	時期		
シェアードサービス	共通の機能を持つグループ会社（総務・不動産関連、事故受付、事務、システム等）の統合化を含む、バックオフィス業務のシェアード化推進	2010年10月～		・総務・不動産関連会社：2010年10月の合併に向けて準備中 ・事故受付会社、事務・システム関連会社：2011年度の合併を検討中
	グループ内物流ネットワーク、印刷物作成・発注の共同化	2010年10月～		・物流会社：物流単価、首都圏便の共同化に向け検討中 ・印刷物作成・発注：3社共通のスキームを構築中
その他	損調子会社の相互活用	2009年10月～	○	2009年10月より、損調子会社の相互業務委託を3ヶ所（仙台・広島・東京西）にて開始
	リスクコンサルティング、調査・研究、融資・保証の事業を行う関連会社の統合	2010年 4月	○	2010年4月にリスクコンサルティング、調査・研究、融資・保証、人材派遣の4分野関連会社を統合
	共通の資産運用リスク計測システムを活用して、資産負債の統合管理を推進	2010年 4月～	○	2010年4月より、共通の資産運用リスク計測システム・計測手法によるリスク計測の技術共有を開始
	ART（代替的リスク移転）商品の販売提携や共同開発	2010年 4月～	○	2010年4月より、天候デリバティブ事業で三井住友海上米国子会社の共同利用を開始
	人財交流によるノウハウ共有、女性活躍推進等の協調取組を実施	2010年 10月～	○	・人財交流：女性活躍推進セミナーを開催（2009年12月） ・新入社員研修を3社合同で実施（2010年4月）
	Web約款導入による環境対策への合同取組	2010年 1月～	○	三井住友海上は2010年1月に実施、あいおい損保・ニッセイ同和損保も2010年10月合併時に実施予定
	大規模災害発生時の協力体制構築	2010年 4月～	○	グループ危機管理体制に基づく規定を整備し、大規模災害発生時の協力体制を構築（2010年4月）
	環境ISO取組を通じたCO_2等の環境負担削減と、生物多様性保全活動の実施	2010年 4月～	○	・CO_2排出抑制のための中長期計画の策定に着手 ・ラムサール条約登録湿地での保全活動の実施を決定

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

ITシステム／現行システムの優位性（１）

MS&AD INSURANCE GROUP

営業拠点・代理店での品質向上、業務効率化に資するもの

電子計上システムとWeb約款によるペーパーレス化【三井住友海上】

電子計上システムとは？

代理店が、お客さまを訪問時に使用する持ち出し可能なパソコン上で稼動するオフラインソフト
代理店は、訪問前にお客さまの契約データ等をPCに取り込んでおき、お客さまの面前で契約内容の説明、保険料の計算、お客さまの契約意思確認、契約手続きが出来る。
お客さまからは電子サインをもらう。＝手続きが簡単

☆お客さまのメリット
⇒契約手続きの簡便化
⇒紙の約款保管が不要に

☆保険会社・代理店のメリット
⇒業務効率化
⇒印刷・郵送コストの削減

（三井住友海上　お客さま向け動画チラシ「Green Power サポーター」より抜粋）

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

ITシステム／現行システムの優位性（２）

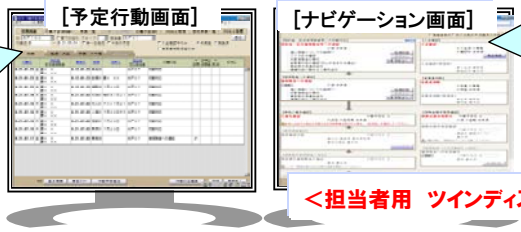
MS&AD INSURANCE GROUP

損害サービス拠点での品質向上、業務効率化に資するもの

SPM
Support Process Management
【三井住友海上】

- 事故の受付から保険金のお支払いまでの一連の業務をシステム的に管理し、お客さまへの連絡等に漏れや遅れを発生させない業界初のシステム。 全国232拠点に配備済（ビジネスモデル特許出願中）
- 初動対応から保険金お支払いまで、全ての業務プロセスをナビゲート
  担当者はタイムリーで漏れのない的確な事故対応が可能に

その日に対応すべき事項が表示される。



これから実施すること、実施予定日、トークスクリプトが表示される。

＜担当者用　ツインディスプレイイメージ＞

- SPM活用に加え、1事故1チーム制により事故対応力が向上、お客さま第一に立った対応が可能
- 「見える化」により拠点グループ内の情報共有も促進

アンサンブル
【　あいおい損保　】
2010年10月より
【あいおいニッセイ同和損保】で利用

- 事故対応システムと電話対応機能を一体化したCTI機能搭載システム（損保業界初）
  (CTI:Computer Telephony Integration)
- お客さまからの電話着信時、システムが電話番号から「いつの事故」の「誰から」の電話かを自動検索し、担当者の電話に直結、必要な情報も担当者のPCに送付される。
- 専属の担当者が不在でも、他の担当者に自動転送　⇒お客さまをお待たせしない対応が可能

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

新システムの目指す姿

■次世代商品・サービスを、商品開発から契約手続き・保険金支払いまで、トータルでサポートする最先端のシステムを構築し、業務のあらゆるプロセスにおける品質と生産性向上を実現する。

■システム領域における開発・運営コストを全体で20％以上削減する。

新システムの特徴	新システムの目指す姿	新システムがもたらす効果
従来 種目別のシステム対応 **新システム** ■ システムの構造や機能を抜本的に見直し、全体最適（共通化）を追求 例）システム・データベースを種目横断して共通化し、商品開発・営業推進・業務管理・サービス提供の標準化・高効率化を実現	■ お客さまに高品質の商品・サービスをお届けする、分かりやすく利便性の高いシステム ■ 代理店の業務をあらゆる局面で強力に支援できる代理店システム ■ 仕事の流れを最適化するシステムを構築し、業務の標準化・効率化・品質向上を実現するシステム ■ グループシナジーを追求し、ITコストの削減を実現するシステム	トップラインへの寄与 ↑ 要員の戦略的配置（重点領域へ） 拠点の統廃合 ↓ ボトムラインへの寄与

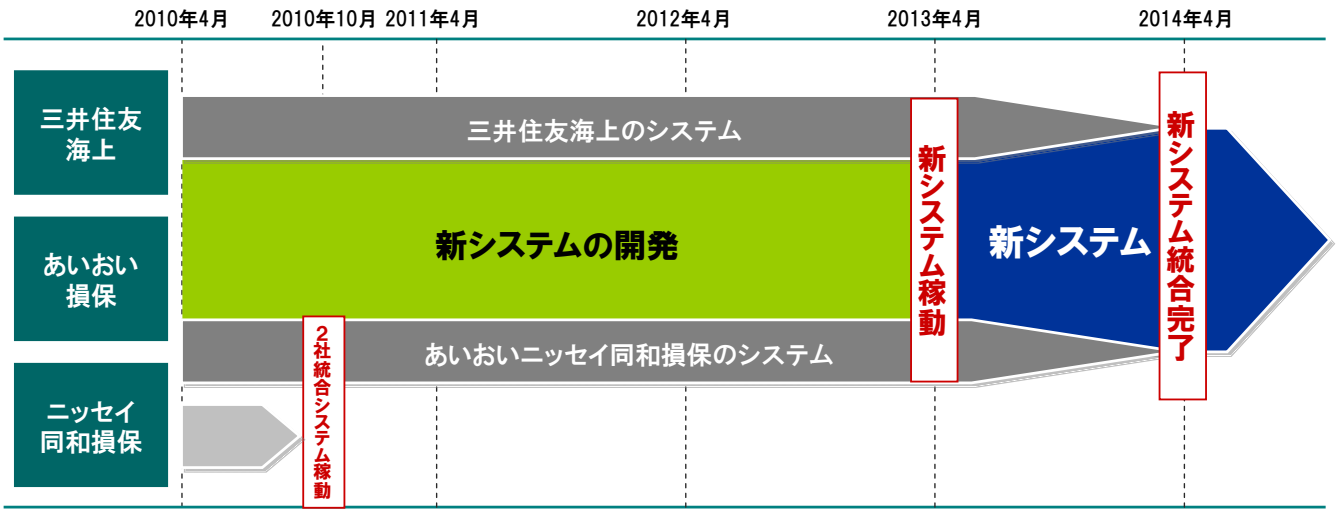
推進中の業務プロセス改革が、新システムの構築により加速され、好循環を創出することが可能に

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

システム統合スケジュール

損保領域の新システムの構築スケジュール

2013年4月の新システム稼動に向け、3社は新システムを共同で開発中



■ 1．2010年10月～：「あいおいニッセイ同和損保」の統合システムが稼動
■ 2．2013年4月～　：新システムの稼動
■ 3．2014年4月　　：システム統合の完了

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

【中期経営計画】MS&ADニューフロンティア2013

グループ戦略 / 国内損保事業

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

MS&ADホールディングス

国内損保事業の基本戦略

MS&AD INSURANCE GROUP

収益拡大に向けた道すじ

1.	商品・サービス	多様な営業基盤・顧客基盤にふさわしい、魅力的な商品・サービスを開発して提供
2.	販売力	マーケットごとのお客さまニーズに応えられるビジネスモデルの展開と、成長領域への集中的な資源投入により、販売力を強化
3.	業務プロセスの品質向上	三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保のノウハウ・仕組みを活用して、業務プロセスの品質を向上させ、ベストプラクティスを創造
4.	シナジー効果	事務・システムの統合、営業・損害サービス拠点の統合等により、事業費を大幅に削減し、経営効率の向上を実現
5.	新市場対応	成長性の高い通販マーケットで、収益性を確保しつつ、事業を拡大

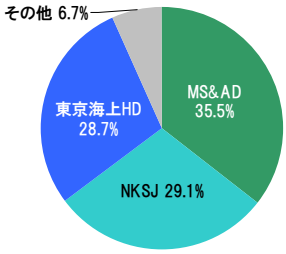
Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

国内損保市場における当社グループのポジション

MS&AD INSURANCE GROUP

マーケットシェア（国内大手9社におけるマーケットシェア）

【2009年度正味収入保険料ベース】



（出所：国内大手9社の決算発表資料よりMS&ADホールディングスが作成）

保険種目別・収入保険料順位

【2009年度正味収入保険料ベース】

（単位：億円）

	合計	火災	海上	傷害	自動車	自賠責	その他
1位	MS&AD 23,104	MS&AD 3,326	MS&AD 601	MS&AD 2,028	MS&AD 11,631	MS&AD 2,723	MS&AD 2,792
2位	NKSJ 18,922	東京海上HD 2,533	東京海上HD 555	NKSJ 1,758	NKSJ 9,590	NKSJ 2,389	東京海上HD 2,560
3位	東京海上HD 18,679	NKSJ 2,407	NKSJ 372	東京海上HD 1,545	東京海上HD 9,196	東京海上HD 2,287	NKSJ 2,405

（出所：大手9社の決算発表資料よりMS&ADホールディングスが作成）

・MS＆AD：三井住友海上・あいおい損保・ニッセイ同和損保の単純合算値
・東京海上HD：東京海上日動・日新火災の単純合算値　・NKSJ：損保ジャパン・日本興亜損保の単純合算値

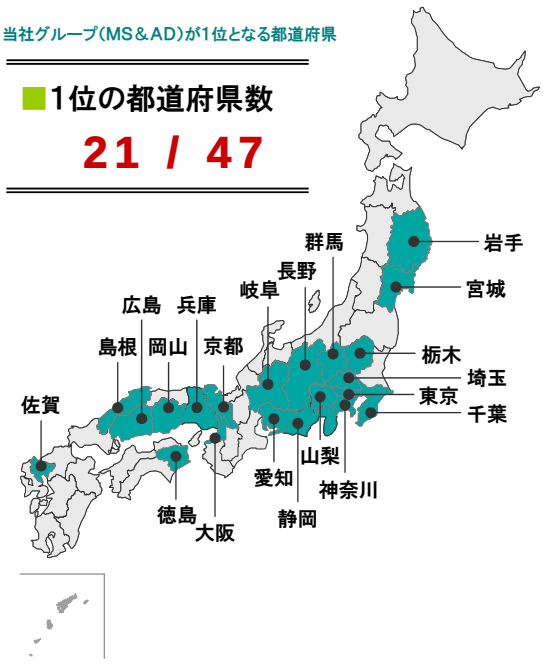
都道府県別・収入保険料順位

【2008年度元受収入保険料（積立保険料除く）ベース】

当社グループ（MS＆AD）が1位となる都道府県

■1位の都道府県数

21 / 47



（出所：平成21年度版損害保険白書よりMS＆ADホールディングスが作成）

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

国内損保市場における当社グループの強み

MS&AD INSURANCE GROUP

営業基盤

国内最大の営業基盤・顧客基盤を持ち、スケールメリットの追求が可能

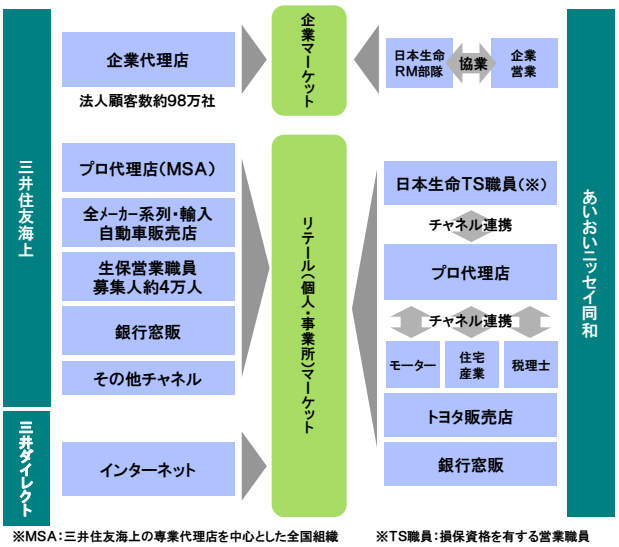
【MS&ADインシュアランスグループの営業基盤・顧客基盤】

- 国内損害保険事業を中心とした、国内外における幅広い事業展開(生命保険事業、海外事業、金融サービス事業、リスク関連事業等)
- リテールマーケットにおける圧倒的な存在感と地域に密着したマーケット開拓力
- 三井グループ、住友グループ、トヨタグループをはじめとした大企業マーケットにおける強固な営業基盤
- 日本生命グループ取引先企業・金融機関・官公庁マーケットおよび営業職員チャネルを通じた個人・中小企業マーケット
- 住友生命・三井生命営業職員の損保募集体制
- 全メーカー系列、輸入車販売店自動車保険マーケット

販売網

リテール・企業マーケットで圧倒的な強みを発揮する販売網

【MS&ADインシュアランスグループの販売網】



※MSA:三井住友海上の専業代理店を中心とした全国組織　※TS職員:損保資格を有する営業職員

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

収益拡大に向けて(トヨタ自動車・日本生命マーケット開拓) あいおいニッセイ同和損保

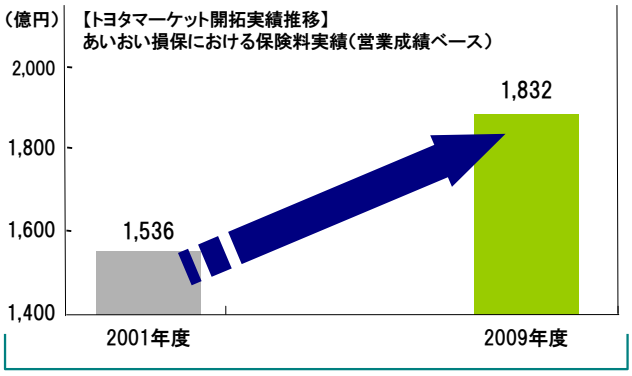
MS&AD INSURANCE GROUP

■緊密マーケットであるトヨタ自動車、日本生命を特定基盤として、グループ対応力拡充により開拓・深耕を加速
■金融機関・取引先企業等の系列を超えて幅広い連携を図り、企業分野で高い成長性を確保

トヨタグループ国内販売店マーケット

【トヨタグループ】

■販売店管理顧客(台数ベース): 約1,350万台
■自動車保険顧客(台数ベース): 約 155万台

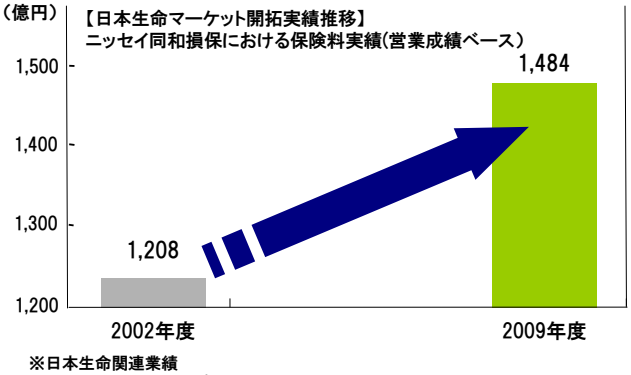


- トヨタ自動車と連携した特徴ある商品の提供
- 車両商談システムでの保険提案による付保率向上
- 販売店への「保険業務改善活動」等の支援策強化

日本生命契約者マーケット

【日本生命】

■生保顧客数: 約1,000万顧客
■取引企業数: 約 23万企業



※日本生命関連業績
:TS職員チャネル+プロ代理店との協業+ホールセール部門での協業の実績

- 4.5万人のTS職員チャネルによる生・損クロスセルの進化
- TS職員との協業プロ代理店の拡充による事業所開拓の深耕
- 日本生命ホールセール組織との連携による企業分野開拓推進、ソリューション営業の強化

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

収益拡大に向けて（生保営業職員チャネル強化と更なる活性化）

三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP

住友生命提携　収益創出モデルの確立に向けて

■本提携初年度の2009年度は10月より切替を開始し、増収に大きく寄与

2009年度*	一般計(億円)
保険料	197
うち増収額	115

*2009年10月～2010年3月営業成績ベース

住友生命営業職員3万人の販売体制・事務インフラ整備により、増収モデルが確立

- 商品・事務に関する一括照会窓口設置（住友生命本社部門のサポート体制）
- 生保・損保一体の営業携帯端末の活用
- 個人分野商品の異動代行（専用コンタクトセンターで集中対応）
- 本社集約型事務処理体制構築

■2010年度は、更に持続性をもった増収モデルへの進化を目指す。

2010年度(見込)	一般計(億円)	うち切替以外の新規増収見込
保険料	380	
うち増収額	183	52

*営業成績ベース

生保営業職員の特性を踏まえた持続的に増収するモデルを確立する。

- 住友生命支社を起点とした損保推進
- 住友生命損保施策の活用推進
- 住友生命各支社・支部と三井住友海上相対支店の更なる連携強化

三井生命提携

■2002年よりスタートした三井生命提携については2009年度一般計103.7億円（増収率2.6%）と順調に進捗

■三井生命は損保を「第二の本業：中核事業」と位置付け、取組をさらに強化

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

収益拡大に向けて（販売イノベーションの取組）

三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP

2009年度までの取組

高品質な販売網の実現

・質の高い代理店の「新設」
・品質・効率性の観点から代理店の「集約化・解約」
・優良代理店の育成・大型化

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
解約代理店数	△ 6,563	△ 7,337	△ 5,977	△ 3,721
新設代理店数	1,583	1,074	1,099	2,129
期末代理店数	52,659	46,396	41,518	39,926
2005年度対比	△ 4,980	△ 11,243	△ 16,121	△ 17,713

代理店の品質向上に向けた取組

・代理店品質認定制度の創設
・品質向上運動の展開
・代理店教育の強化

確実で利便性の高い契約手続きの実現

ペーパーレス、キャッシュレスを基本とする
新たな販売プロセスの構築
新払込方法、電子計上、　等

	2008年4月	2010年3月
■ キャッシュレス化率	67.4%	88.7%（+21.3pt）
■ 電子計上率	2.3%	25.4%（+23.1pt）

注：いずれも単月のデータ

2010年度取組のポイント

販売網強化

説明責任が果たせ、当社の成長を支える
販売網・営業基盤の実現

- 質の高い代理店の新設・育成
- 収入保険料の維持・拡大を前提とした集約化の推進
- 質の高い大型代理店の育成

代理店の行動改革

代理店の業務品質向上と業務効率化を通じて、
代理店の成長を実現

- キャッシュレス、ペーパーレス、シームレスの推進
- 代理店毎の「目指す姿」実現に向けた指導
- お客さまとの接点強化

営業社員の行動改革

営業組織ごとの役割・働き方見直しによる
「お客さま満足」「効率化」「成長」の実現

- 新規開拓活動（代理店の新設・育成、取引企業の開拓）の増大

販売イノベーションの完遂

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

収益拡大に向けて（通販マーケット）

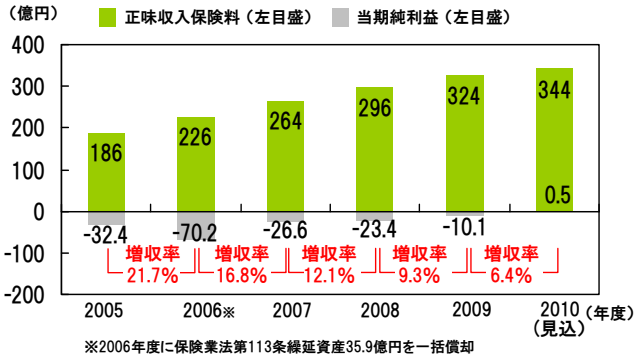
三井ダイレクト損保

MS&AD INSURANCE GROUP

■伸長する通販マーケットにおいて、引き続き高い成長力を維持するとともに収益力を強化する。

三井ダイレクト損保の現状

【正味収入保険料・当期純利益】



※2006年度に保険業法第113条繰延資産35.9億円を一括償却

【通販系損保上位6社ランキング】
－2008年度自動車保険元受正味保険料－

（億円）

順位		自動車保険元受正味保険料
1	ソニー	538
2	三井ダイレクト	294
3	アクサ	293
4	チューリッヒ	287
5	アメリカンホーム	187
6	そんぽ24	86

今後の戦略

■伸長する通販自動車保険マーケットで引き続き高い成長力を維持

■通販8社の自動車保険元受正味保険料・増収率の推移

（億円）

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
元受正味保険料	1,326	1,445	1,563	1,701
増収率	11.3%	8.9%	8.2%	8.8%

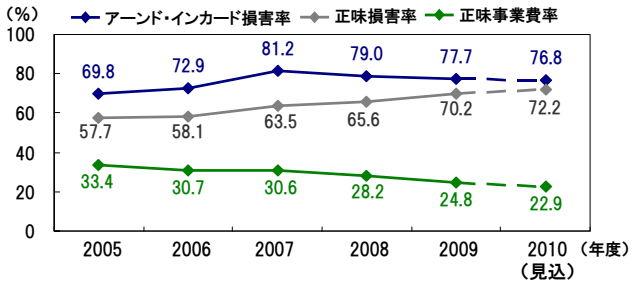
■上記における三井ダイレクトの増収率・マーケットシェア推移

増収率	16.1%	21.9%	16.6%	12.2%
通販マーケットシェア	13.9%	15.5%	16.8%	17.3%

（出所：各社決算数値およびインシュアランス誌よりMS&ADホールディングスが作成）

■2010年度の単年度黒字を目指す

■損害率・事業費率の推移



Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

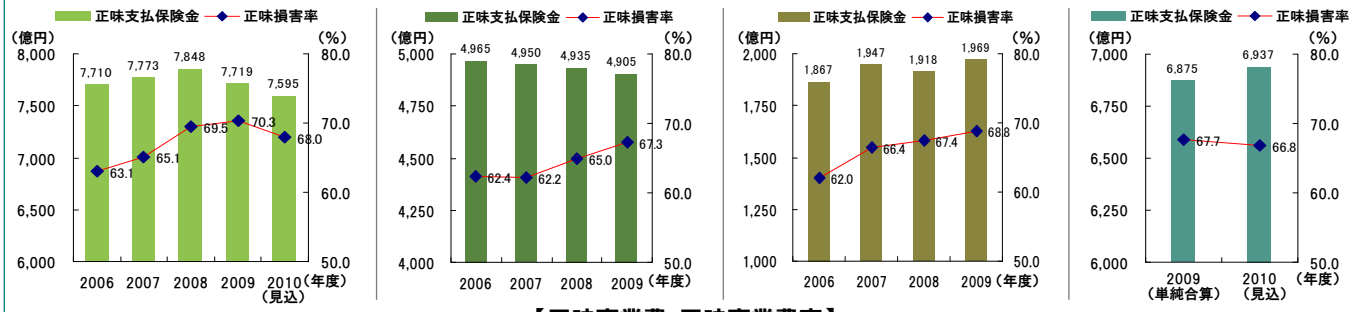
損害率・事業費率の状況

MS&AD INSURANCE GROUP

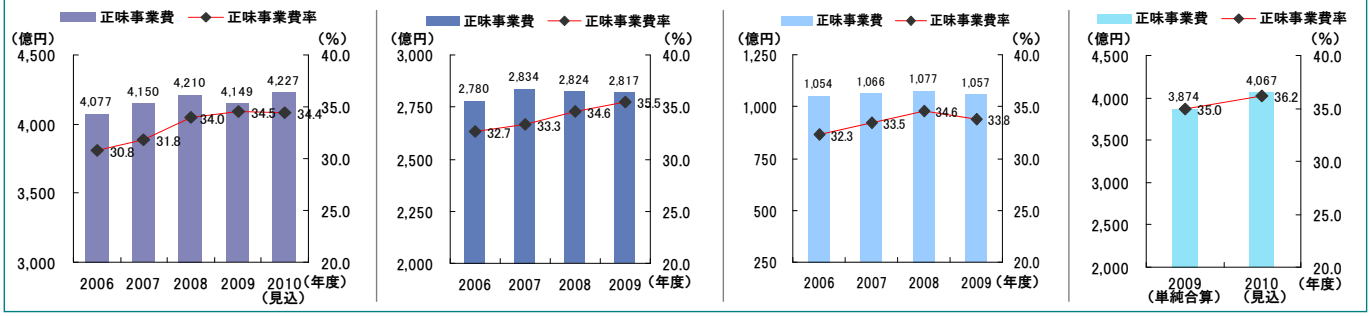
■三井住友海上：2009年度正味支払保険金は前期比▲129億円、正味事業費は▲61億円減少
■あいおい損保・ニッセイ同和損保：2009年度正味支払保険金は合算で前期比+21億円、正味事業費は▲27億円

三井住友海上 | あいおい損保 | ニッセイ同和損保 | あいおいニッセイ同和損保

【正味支払保険金・正味損害率】



【正味事業費・正味事業費率】



Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

自動車保険の損害率改善に向けて（三井住友海上）

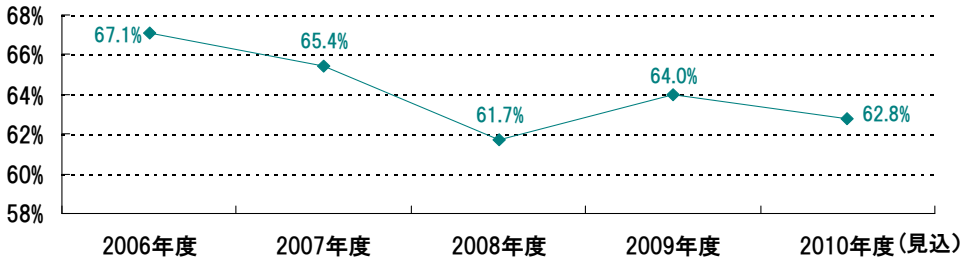
MS&AD INSURANCE GROUP

■2009年度のアーンド・インカード損害率(損害調査費を除く)は、保険料単価減少等による保険料減収、交通量増加に伴う事故頻度上昇等により、前年同期比＋2.3pt上昇

■2010年度通期のアーンド・インカード損害率(損害調査費を除く)は、以下の効果・施策の継続により、62.8％を見込む

商品改定の効果 （2010年10月実施予定）	・参考純率改定および近時の収支実績・社会環境変化等を踏まえ、料率水準、ノンフリート等級別係数および割引制度の見直しを実施
適正な アンダーライティング	・部支店単位・代理店単位でのきめ細かい引受基準の設定により、地域性や代理店のアンダーライティング力に応じた引受判断を推進
事故防止の取組	・フリート契約者向け…新規フリートや損害率が高いフリートに対する事故防止取組 ・個人契約者向け…安全運転に対する意識を高める取組

アーンド・インカード損害率の推移（損害調査費を除く）



Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

自動車保険の損害率改善に向けて（あいおい損保・ニッセイ同和損保）

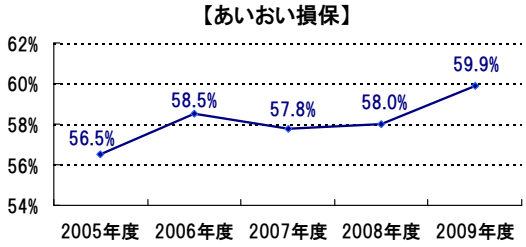
MS&AD INSURANCE GROUP

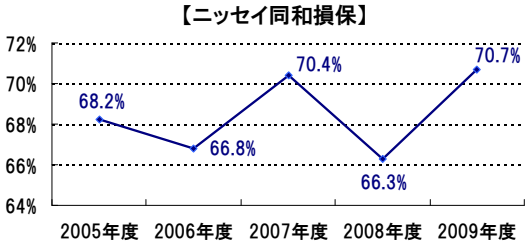
■2009年度のアーンド・インカード損害率(損害調査費を除く)は軽自動車ウェイトの高まりや各種割引の拡大等による保険料単価の減少、ガソリン価格低下や高速料金定額化等に伴う走行距離増加による事故頻度の上昇により、あいおい＋1.9pt、ニッセイ同和＋4.4pt上昇

■2010年度のアーンド・インカード損害率(損害調査費を除く)は以下の対策推進により、2社合算ベースで61.4％を見込む

契約構造の革新	・「リスク細分商品」への移行、ならびに「補償の見直し」の推進による顧客ニーズと増収・収支対策の同時実現
個別収支対策	・課支社、代理店・扱者におけるきめ細かい引受判断、該当フリート契約者に対する事故の未然防止策提案活動等の取組み強化
適正な アンダーライティング	・公平性をベースに、収益を基軸にしたアンダーライティング方針の徹底遵守

アーンド・インカード損害率の推移（損害調査費を除く）



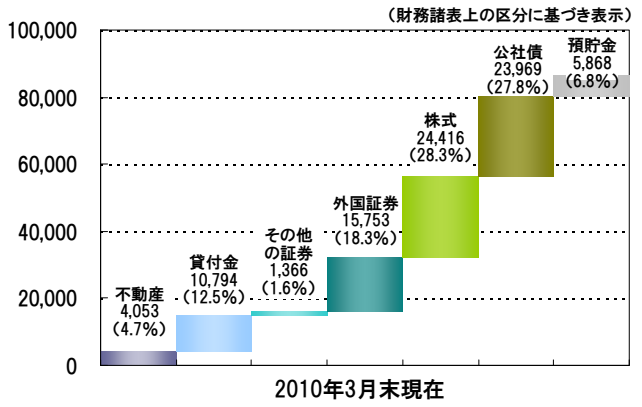


Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

資産運用の状況（三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保 合算数値）

MS&AD INSURANCE GROUP

運用資産の残高と資産別構成比 （億円）



債券の格付別残高・構成比 （億円）

格付レベル	国内の発行体		海外の発行体	
	残高	（構成比）	残高	（構成比）
AAA格	11,579	(48.3%)	5,211	(56.2%)
AA格	7,428	(31.0%)	1,905	(20.6%)
A格	4,391	(18.3%)	1,999	(21.6%)
BBB格	427	(1.8%)	115	(1.2%)
BB格以下	143	(0.6%)	34	(0.4%)
合計	23,969	(100.0%)	9,265	(100.0%)

（各社で付与している社内格付に基づき、債券の保有残高を単純合算したもの）

適切なリスク管理のもとで時価純資産価値の持続的な拡大を追求する

■ 運用戦略の推進

- グループの運用資産の拡大と各社のノウハウの共有化を通して、資産運用力を強化
- 非効率銘柄を中心に戦略株式の残高を抑制

■ リスク管理・ALM

- 個別与信先に対する商品横断的なエクスポージャー管理の精緻化
- 統合的なリスク管理の精緻化
- ALMの推進

■ 運用体制の検討

- フロント・ミドル・バックそれぞれの機能につき、業務効率の更なる向上の観点から検討

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

【中期経営計画】MS&ADニューフロンティア2013

グループ戦略 / 国内生保事業

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

MS&ADホールディングス

国内生保事業環境と事業戦略

MS&AD INSURANCE GROUP

環境認識

- 生命保険マーケットは成熟市場への移行が進んでおり、業界全体での保有契約高の減少傾向が続いている。
- しかしながら、少子高齢化の進行やデフレ経済の定着から、社会保障制度の先行きに対する不安感は強く、自助努力の必要性への理解は深まってきており、ニーズに適合した生命保険への期待はますます高まっている。

事業戦略

拡大した営業基盤を活用し、クロスセルを軸に、金融機関、生保プロ代理店、直販チャネルを通じて魅力的な商品・サービスをお客さまに提供し成長を加速する

MS&AD 三井住友海上きらめき生命

あいおい生命 IOI LIFE

個人年金保険分野において、お客さまのニーズに応じた商品提供と販売力の強化により、リーディングカンパニーとしての地位を確立する

個人年金は、未来への贈りもの。
三井住友海上メットライフ生命
Mitsui Sumitomo MetLife

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の合併について

MS&AD INSURANCE GROUP

■国内生保事業の事業基盤拡大と成長加速に向け、2011年10月に合併予定

目指す企業像

- お客さまに安心と満足をお届けし、お客さま・社会から信頼される企業を目指す。
- グループにおける国内生保事業会社の中核会社として、持続的に発展する企業を目指す。
- 損保系生保の最も優れたビジネスモデルを実現し、代理店とともに最高品質の商品・サービスを提供する。
- 社員一人ひとりが夢と誇りを持ち、働きがいと活力あふれる企業を目指す。

新会社の概要

2010年3月末数値

	きらめき生命	あいおい生命	2社単純合算
新契約件数(*1)	21万件	9万件	31万件
保有契約件数(*1)	119万件	57万件	177万件
新契約高(*1)	1兆5,872億円	1兆594億円	2兆6,466億円
保有契約高(*1)	9兆4,447億円	5兆8,433億円	15兆2,880億円
新契約年換算保険料(*1)	275億円	97億円	372億円
保有契約年換算保険料(*1)	1,945億円	735億円	2,681億円
当期純利益	(*2) 0億円	13億円	13億円
エンベディッド・バリュー	1,999億円	1,031億円	-
総資産	1兆1,483億円	4,679億円	1兆6,163億円
ソルベンシー・マージン比率	2129.7%	1994.3%	-

(*1) 個人保険と個人年金保険の合算値　(*2) 標準責任準備金積立前の同社の純利益は28億円

ポジション（2008年度新契約高）

順位	会社名	単位：億円
1	日本生命	73,470
2	第一生命	71,700
3	住友生命	61,462
4	かんぽ生命	60,537
5	ソニー生命	38,737
6	大同生命	37,616
7	アリコジャパン	30,666
8	明治安田生命	30,553
9	プルデンシャル生命	28,043
	きらめき＋あいおい生命*	26,976
10	東京海上日動あんしん生命	24,500
	ひまわり＋日本興亜*	21,721
～		
14	三井住友海上きらめき	16,539
15	損保ジャパンひまわり	15,704
～		
18	あいおい生命	10,437
～		
24	日本興亜生命	6,017
～		
45		

（出所：各社の決算発表資料よりMS&ADホールディングス作成）
*：それぞれ2社の単純合算値

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

合併生保新会社の基本戦略

MS&AD INSURANCE GROUP

■「企業価値向上を支える人財の育成」をベースに、「商品・サービスの強化」、「事業基盤の拡充」、「品質の向上」を通じて、持続的な成長と収益力の向上を実現し、損保系生保で最も優れたビジネスモデルを創りあげる。

商品・サービスの強化

■国内No.1損保グループの生保会社にふさわしい商品を提供
- ・販売環境の変化やマーケットニーズを的確に捉えた独自性・特長ある商品を開発
- ・あらゆるお客さまのニーズに応えられるよう、死亡保障、医療保障、貯蓄型の各商品を幅広くラインアップ

■ダイレクトサービス等、お客さまの声にお応えするサービスの提供

事業基盤の拡充

■国内損保事業における最大の営業基盤を活用し、クロスセルのさらなる強化を実現

■販売基盤の相互補完と拡充により、お客さまへの安心と満足を様々なチャネルを通じてご提供
- ・トップ水準の金融機関窓販体制
- ・生保プロ代理店の一層の拡充
- ・直販チャネルの積極推進

品質の向上

■イメージワークフローシステム（画像データによる申込書類処理）を導入し、契約成立業務の処理スピードアップとプロセスの「見える化」を実現

■保全・保険金支払分野において、お客さまの利便性が高く、正確・迅速でわかりやすい事務フローを確立

■全ての業務プロセスにおいて絶え間なく品質向上に取り組み、お客さまの信頼を獲得

企業価値向上を支える人財の育成

合併シナジー効果の発揮

■合併によるスケールメリットの活用や商品・販売基盤・ノウハウの相互補完
■システム投資および事務効率化、ならびに営業体制の拡充などの要員の戦略的配置により、新契約EV増加
■能力・スキル向上に向けた人財育成プログラムを構築するとともに、人財配置の最適化を通じてシナジー効果発揮

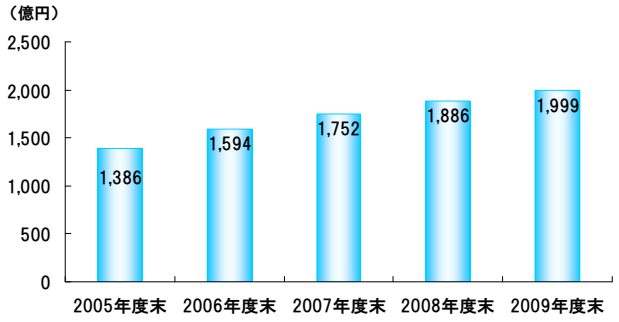
2013年度目標値（国内生保事業合計）
「グループコア利益150億円」、「保有契約年換算保険料3，300億円（除く団体保険）」の達成

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

エンベディッド・バリューの推移

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上きらめき生命（2005年度末～2009年度末）



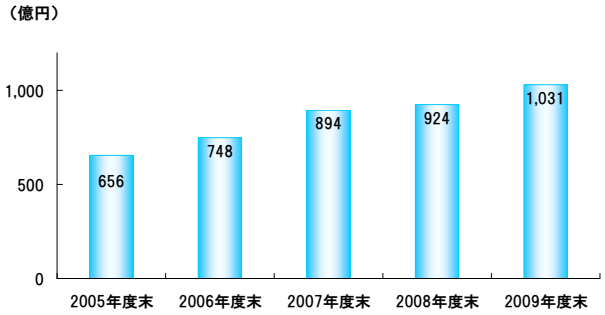
2009年度の増減内訳（億円）

要因	増減額
新契約価値	＋50
2008年度末EVからの期待収益	＋92
前提条件と2009年度実績の差異	＋1
金利変動等の影響	▲3
その他の前提条件変更の影響	▲26
合計	＋113

EVの感応度（億円）

		変動幅
新規投資利回り	0.25%低下	▲74
保険事故発生率	10%悪化	▲99
解約・失効率	10%悪化	▲27
ソルベンシー・マージン比率	800%→900%	▲1
割引率	7%→6%	+126
割引率	7%→8%	▲108

あいおい生命（2005年度末～2009年度末）



2009年度の増減内訳（億円）

要因	増減額
新契約価値	＋9
2008年度末EVからの期待収益	＋53
前提条件と2009年度実績との差異	＋14
金利変動等の影響	＋31
その他の前提条件変更の影響	▲12
モデル変更の影響	＋11
合計	＋106

EVの感応度（億円）

		変動幅
新規投資利回り	0.25%低下	▲20
保険事故発生率	10%悪化	▲36
解約・失効率	10%悪化	▲4
ソルベンシー・マージン比率	1000%→1100%	▲17
割引率	8%→7%	+55
割引率	8%→9%	▲48

※2009年度末エンベディッド・バリューは、継続性の観点から各社2008年度末と同様の計算方法と前提条件の設定方法により計算しております。

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

三井住友海上メットライフ生命

MS&AD INSURANCE GROUP

■お客さまのニーズに応じた商品提供と販売力の強化により、
個人年金保険市場におけるリーディングカンパニーとしての地位を確実なものとする。

■2009年度の当期純利益（出資持分ベース）は44億円。今後、引き続き安定的な黒字運営を目指す。

環境認識

- 少子高齢化の進展により、個人年金保険市場は中長期的に安定成長する。
- 信用力や長期安定性に基づき、保険会社を選別する傾向はますます強まる。

商品戦略	販売戦略	リスク管理
■お客さまニーズの変化に柔軟に対応するため、変額・定額の両商品を販売する(2009年度はお客さまニーズの定額商品シフトを受け、定額新商品を開発)。 ■年金機能を重視した終身型年金商品を安定的に提供する。	■以下の強みを活かして、金融機関との関係を強化し、提携を拡大する。 (2010年3月末委託代理店数177店) ー高い信用力 ー安定的な商品提供 ー優れた「教育・研修」制度	■ 金融危機以降、リスク管理態勢を一層強化している。 ■市場変動の影響を軽減する商品を開発する。

2013年度目標値（国内生保事業合計）
「グループコア利益150億円」の達成

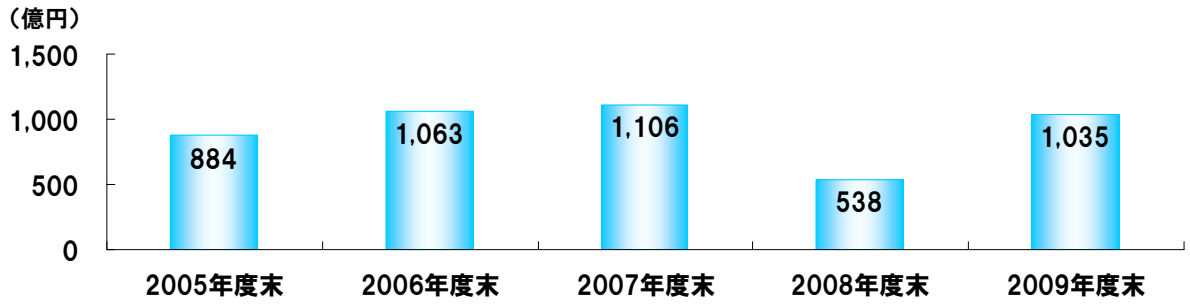
Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

エンベディッド・バリューの推移

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上メットライフ生命 （2005年度末～2009年度末）

■2008年度、エンベディッド・バリューは金融危機に起因する運用環境の急激な悪化を受け大幅に減少するも、2009年度は市場の回復および純資産価値が増加したことにより大きく増加



2009年度の増減内訳 （億円）

要因	増減額
新契約価値	+ 11
2008年度末EVからの期待収益	+ 144
前提条件と2009年度実績の差異	+ 390
その他の前提条件変更の影響	▲ 49
合計	+ 497

EVの感応度 （億円）

		変動幅
特別勘定資産収益率	0.5%低下	▲ 41
保険事故発生率	10%悪化	▲ 21
解約・失効率	10%悪化	0
ソルベンシー・マージン比率	600%→700%	▲ 4
割引率	7 %→6 %	+ 41
割引率	7 %→8 %	▲ 38

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

【中期経営計画】MS&ADニューフロンティア2013

グループ戦略 / 海外事業

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

業績推移

正味収入保険料

（億円）

■2009年度は、円高影響を受け約12％の減収も、現地通貨ベースでは5.2％の増収を果たし引き続き成長

<MSIG>←　→<MS＆ADインシュアランスグループ>

正味収入保険料							
地域	2006年度実績	2007年度実績	2008年度実績	2009年度実績	（前年度比）		2010年度計画
アジア	909	1,055	1,063	984	△ 79		1,124
米州	352	334	322	336	14		424
欧 州	671	886	687	533	△ 154		715
再保険	196	261	256	209	△ 47		206
海外合計	2,129	2,533	2,331	2,062	△ 269		2,469

当期純利益

（億円）

■2009年度は、金融危機前の水準を回復

<MSIG>←　→<MS＆ADインシュアランスグループ>

当期純利益							
地域	2006年度実績	2007年度実績	2008年度実績	2009年度実績	（前年度比）		2010年度計画
アジア	81	114	19	109	90		94
米州	△ 18	12	17	9	△ 8		30
欧 州	24	△ 24	△ 336	△ 9	327		△ 2
再保険	50	67	42	81	39		58
海外合計	117	149	△ 294	151	445		180

（注1）2006～2009年度は、三井住友海上グループの海外事業実績（非連結子会社実績を含む）
（注2）2010年度はMS＆ADインシュアランスグループの海外事業計画値（あいおいニッセイ同和損保についてはアジア、米州、欧州の計画値）
（注3）「当期純利益」の表中、2006～2009年度の「海外合計」欄には、連結調整等を反映

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

MS＆ADインシュアランスグループの海外ネットワーク

MS＆ADインシュアランスグループの海外ネットワーク　42カ国・地域、325拠点へ拡大

注）地図中の都市は、2010年5月現在のMS＆ADインシュアランスグループの拠点がある主な都市

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

成長モデルの更なる展開

MS&AD INSURANCE GROUP

成長モデル1

経済発展が見込まれる国・地域に早くから進出し、技術支援等を通じて、市場とともに成長

1934年	タイ
1957年	香港
1958年	シンガポール
1962年	マレーシア
1969年	インドネシア
1974年	ブラジル
1977年	フィリピン
1997年	ベトナム
1999年	台湾
2001年	中国（上海支店）
2003年	インド
2004年	ロシア
2005年	カンボジア
2010年	ラオス

※年号は営業免許を取得した年

成長モデル2

環境変化を捉え、付加価値提供可能な事業モデルで市場に進出

2000年	日系損保初の100%出資ロイズシンジケートを設立
2000年	自動車販売チャネルを通じたローカル事業の展開
2007年	ドイツ、フランス等欧州大陸ローカル市場へ参入

成長モデル3

シナジー効果等が期待できる企業／事業をM＆Aで取得

2004年	英国AVIVAのアジア損保事業を買収
2005年	台湾の明台社を買収

MS＆ADインシュアランスグループは、経営統合により拡大した営業基盤の下、国内外一体取組によって日系顧客を中心とした事業と、ローカル顧客を中心とした事業とをバランス良く展開する。

- アジア：トップクラスの事業基盤・優位性を活かしさらに成長
- 欧州：地域的拡大・サービス体制の充実と収益追求
- 米州：堅実な収益の確保

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

アジアでのトップクラスの事業基盤・優位性を活用し、更なる成長へ

MS&AD INSURANCE GROUP

アジア各国・地域での高い業界順位（2008年度）

シンガポール 2位、マレーシア 3位

タイ 4位、フィリピン 3位、台湾 2位

中国は外資系保険会社中 2位に （2009年度）

- その他：インドネシア7位、香港9位、ベトナム・インド11位

⇒ASEAN計で欧州系・米国系損保を上回り外資系最大

（出所：各国の保険当局より開示された損保元受収保などをもとに、MS＆ADホールディングスにて作成）

アジア損害保険市場の高い収益性

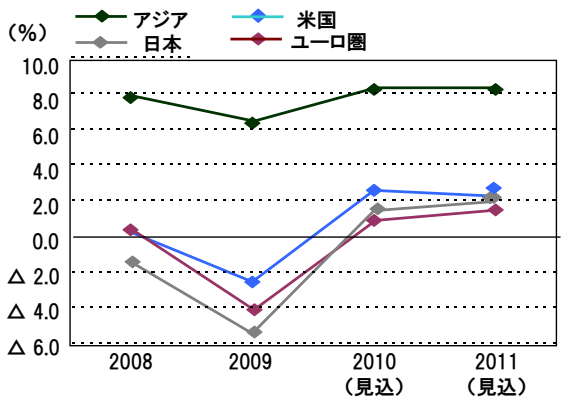
アジア地域のコンバインドレシオ（収支残率）の推移

2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
93.2%	90.6%	89.7%	93.1%	90.0%

⇒安定的な利益拡大に貢献

地域別経済成長（アジアでの保険市場の伸び）

【実質GDP成長率】



出典）MF"World Economic Outlook"（2010年1月）

成長性の高い領域への投資を積極的に検討

（アジアの生保、ASEANの損保等）

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

【中期経営計画】MS&ADニューフロンティア2013

資本政策

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

MS&ADホールディングス

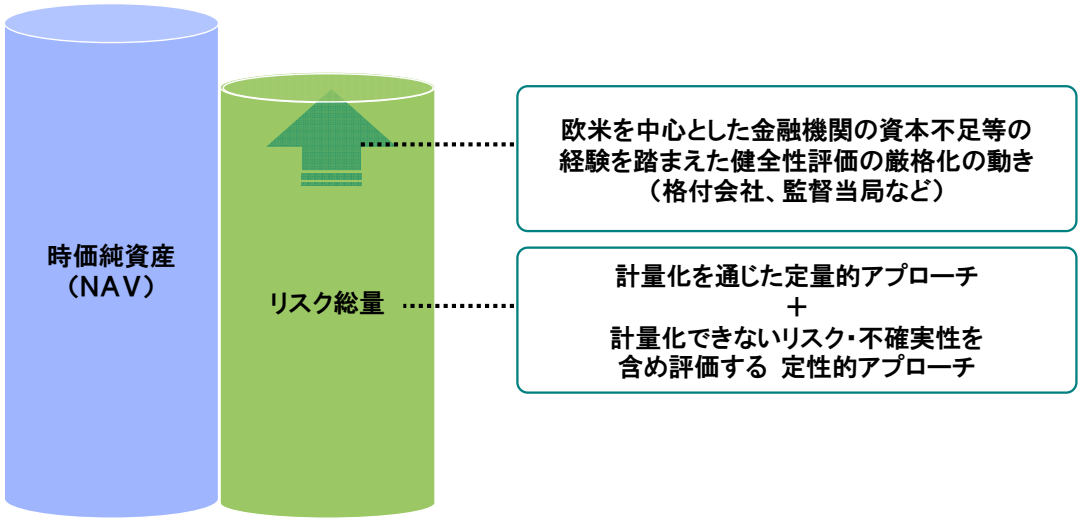
リスク／資本管理態勢

■99.5%VaRベースのリスク量計算を基本としたリスク総量の把握
■適切な資本水準（含：事業投資のファンド）確保状況についての定期的なモニタリング

1. ソルベンシー規制等の厳格化の動向も見据え、リスク管理態勢の精緻化を図る。

2. 市場の状況を見ながら戦略株式の保有残高を抑制していく。

なお、現在、当社の資本は健全な事業活動の維持に問題のない水準を保っており、資本増強の必要はない。



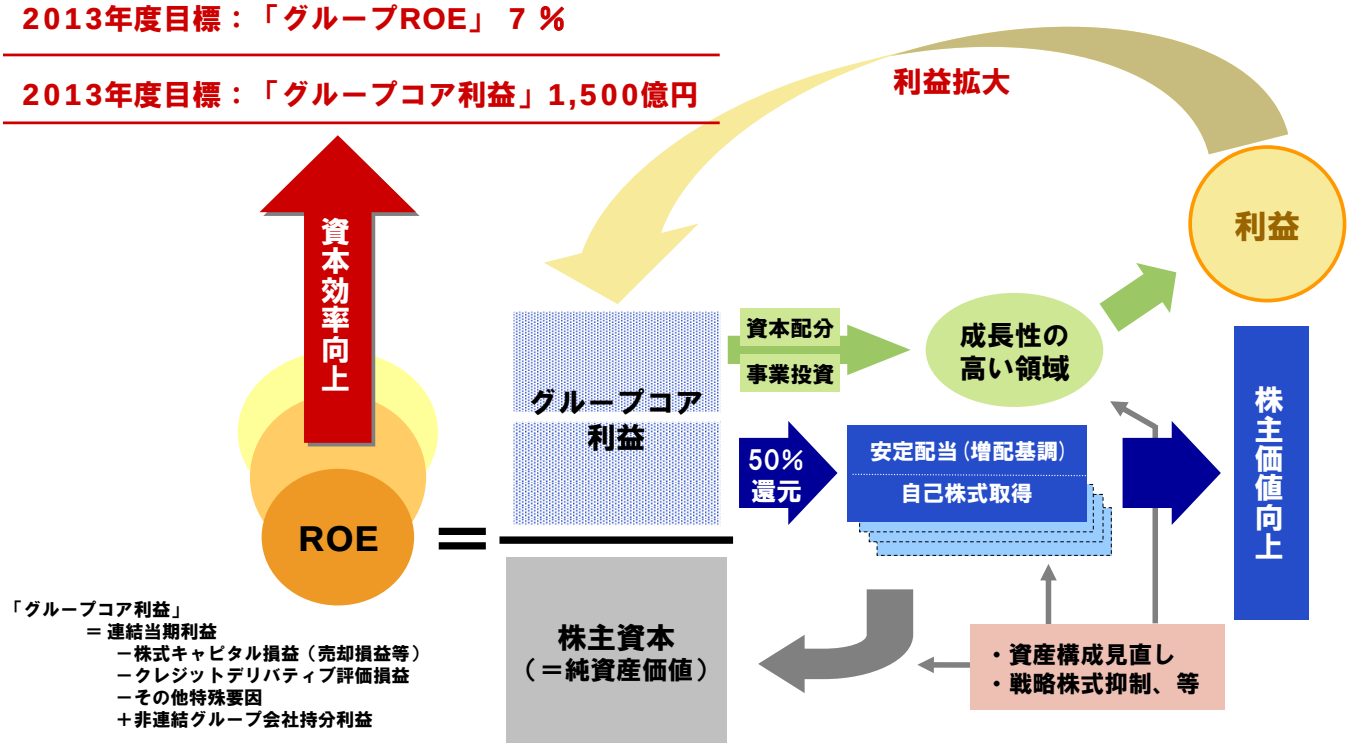
Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

資本政策と株主還元（1）

MS＆ADインシュアランス グループの中期的な基本方針

2013年度目標：「グループROE」 7 %

2013年度目標：「グループコア利益」1,500億円



Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

資本政策と株主還元（２）

MS&AD INSURANCE GROUP

資本政策の考え方

■「グループコア利益」をベースに株主還元を行うとともに、成長性の高い領域への資本投入を通じて、成長サイクルを実現

■ 2013年度のROE目標「7%」※ の達成に向け、資本効率の向上を推進する。

※グループの中期経営計画「MS＆ADニューフロンティア2013」
「グループROE」＝グループコア利益÷期初・期末平均連結純資産（除く少数株主持分）

■ ROE目標の達成には、「利益の拡大」と「的確な資本マネジメント」が重要

・利益の拡大：
統合効果の発揮、成長戦略の推進により、2013年度「グループコア利益」1,500億円を目指す。
・的確な資本マネジメント：
株主還元と収益性の高い領域への資本活用により推進。戦略株式の抑制も、資本効率向上の一環として実施

■ 配当については、1株あたりの配当水準の安定性を維持することを基本とし、中期的に収益力を高めることによって増配基調を目指す。

■ 自己株式取得は継続的に実施。配当と合わせた総還元率は50%を目処。これに加え、資本と利益の状況を見ながら、機動的かつ継続的に実施

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

資本政策と株主還元（３）

MS&AD INSURANCE GROUP

これまでの「グループコア利益」推移と還元実績（参考：三井住友海上、三井住友海上ホールディングス）

（億円）

（グループコア利益の計上年度→）	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
グループコア利益（GCP）＊1	286	739	649	660	31
配当	136	185	198	225	226
1株あたり配当金（年間）	9.5円	13円	14円	＊2 16円	54.0円
自己株式取得(GCP計上の翌年度に実施)	120	115	70	40	100
配当+自己株式取得（還元額）	256	300	268	265	326
還元額/グループコア利益	90%	41%	41%	40%	1057%

＊1　三井住友海上・三井住友海上ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾙ ﾃﾞｨﾝｸﾞｽの数値
なお、2008年度までの「グループコア利益」定義は以下のとおり。

「グループコア利益」
＝連結当期純利益
－株式キャピタル損益
－クレジットデリバティブ評価損益
－生保子会社連結利益
＋MSIきらめき生命 標準責任準備金積増前利益
＋MSIメットライフ生命 US-GAAPベース持分利益
＋他

＊2　2007年度までは三井住友海上の実績。2007年度の1株あたり配当額16円は、2008年度のベースに引き直すと53.3円に相当

自己株式取得実績（参考）

取得時期		取得株数（千株）	取得額（百万円）
三井住友海上			
2004年度	（2004年 8月～10月）	23,073	21,485
2005年度	（2005年 9月）	10,000	11,992
2006年度	（2007年 2月～3月）	7,846	11,499
2007年度	（2008年 2月～3月）	6,402	6,998
三井住友海上グループホールディングス			
2008年度	（2009年 2月～3月）	1,851	3,999
2009年度	（2010年 2月～3月）	4,329	9,999

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

参考資料

【中期経営計画】 MS＆ADニューフロンティア２０１３

MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス株式会社

MS&AD MS&ADインシュアランス グループ

MS＆ADインシュアランス グループ　中期経営計画

MS＆ADニューフロンティア2013

― 世界トップ水準の保険･金融グループの実現に向けて ―

2010年4月1日

MS＆ADインシュアランス グループの目指す姿

スピード感を持って飛躍的に事業基盤および経営資源の質･量の強化･拡大を図ることにより、グローバルに事業展開する世界トップ水準の保険･金融グループを創造して、持続的な成長と企業価値向上を実現する

MS＆ADインシュアランス グループの目指す姿	経営理念（ミッション）	「MS＆ADインシュアランス グループの存在意義」	グローバルな保険･金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支えます	
	経営ビジョン	「MS＆ADインシュアランス グループが中期的に目指す姿」	持続的成長と企業価値向上を追い続ける世界トップ水準の保険･金融グループを創造します	
	行動指針（バリュー）	「経営理念（ミッション）を実現するために、MS＆ADインシュアランス グループの全社員が行動する際に大事にすること」	【お客さま第一】 CUSTOMER FOCUSED（カスタマー･フォーカス）	わたしたちは、常にお客さまの安心と満足のために、行動します
			【誠実】 INTEGRITY（インテグリティ）	わたしたちは、あらゆる場面で、あらゆる人に、誠実、親切、公平･公正に接します
			【チームワーク】 TEAMWORK（チームワーク）	わたしたちは、お互いの個性と意見を尊重し、知識とアイデアを共有して、ともに成長します
			【革新】 INNOVATION（イノベーション）	わたしたちは、ステークホルダーの声に耳を傾け、絶えず自分の仕事を見直します
			【プロフェッショナリズム】 PROFESSIONALISM（プロフェッショナリズム）	わたしたちは、自らを磨き続け、常に高い品質のサービスを提供します

基本戦略 ①

❑ 品質向上を通じて、お客さまの信頼を獲得し、成長を実現する

- お客さま第一を実践し、あらゆるお客さまに高品質の商品・サービスをお届けする。
- 成長により得られる収益を品質向上に投入することにより、好循環サイクルを確立し、持続的な成長を実現する。

❑ グループの総合力を結集してグループシナジーを追求し、収益力を格段に強化する

- グループシナジーを追求して経営効率化を図り、グループの収益力向上を実現する。
- 事務・システムの一本化、シェアードサービスの推進を含め、グループベストの観点からあらゆるオペレーションを見直し、スケールメリットを発揮する。

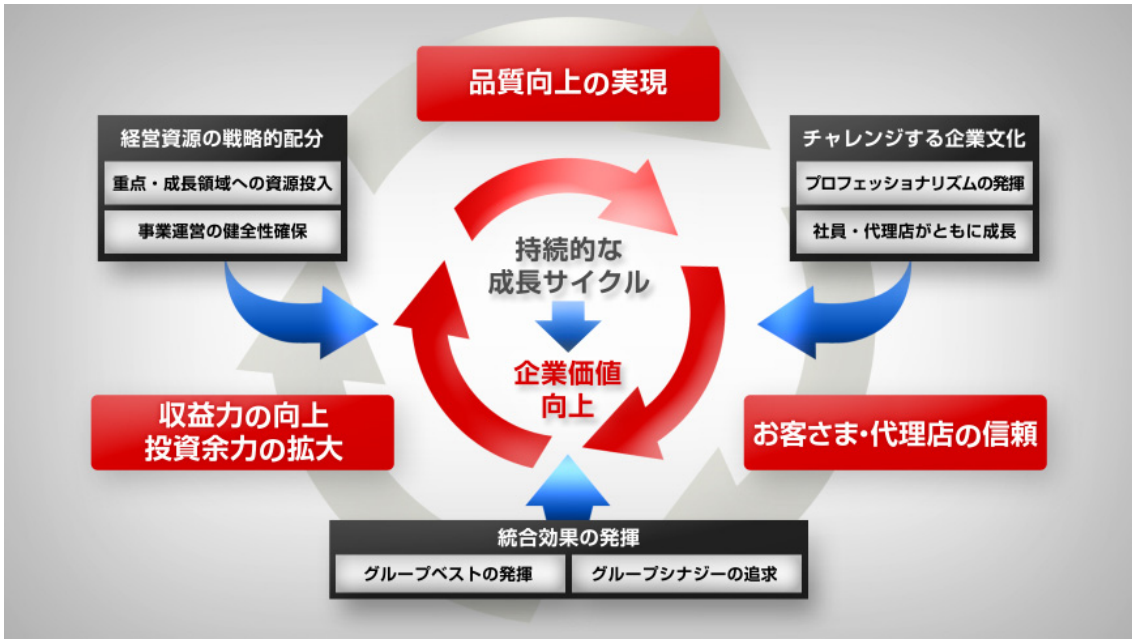
❑ 選択と集中による戦略的な資源配分を実施するとともに、健全な事業運営を行う

- 拡大した経営資源を重点領域・成長領域に投入し、資源の有効活用と成長力の強化を図る。
- グループ各社が保険・金融事業に求められる健全な事業運営を行うとともに、持株会社を中心としたグループ・ガバナンス体制を確立し、グループ全体の健全性を確保する。

❑ プロフェッショナルとしてチャレンジする企業文化を醸成し、社員・代理店とともに成長する

- 社員一人ひとりが、プロフェッショナルとしてチャレンジする企業文化を醸成する。
- 誇りと働きがいを実感し、社員・代理店がともに成長できる企業グループを実現する。

基本戦略 ②　ー 企業価値向上に向けた戦略構図

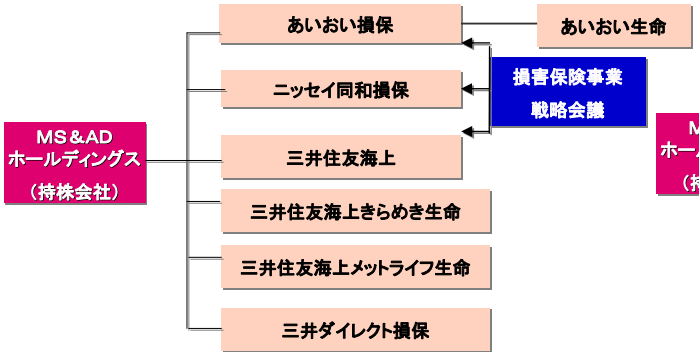


グループ・ガバナンス体制

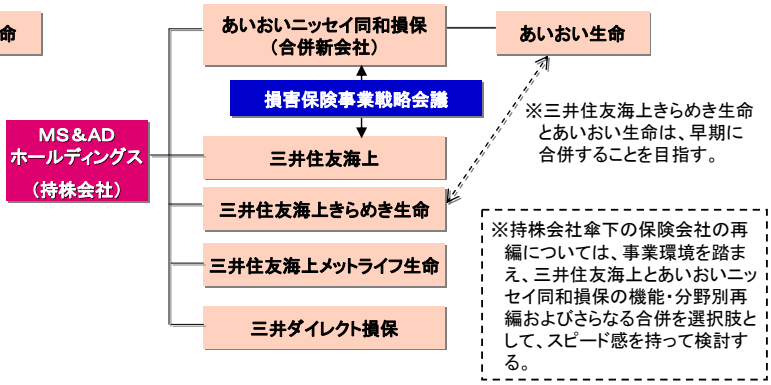
持株会社の下でグループ・ガバナンス体制を構築し、グループ全体の成長力、収益力を強化する観点から、グループ経営戦略を推進するとともに、事業会社は執行に専念して市場への迅速な対応を図る

持株会社の機能	事業会社の機能
・グループ戦略策定・推進 ・グループ全体のリスク管理 ・資本政策 ・統合推進 ・シェアードサービス推進 ・グループ会社の事業推進に対する支援 ・グループ会社の経営管理	・所管する事業領域における戦略策定・業務執行 ・個社としての経営管理 ※ 営業推進、商品戦略、損害サービス戦略など三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の間（合併前は三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保の間）での戦略の調整が必要となる領域については、「損害保険事業戦略会議」を設置し、グループの総合力を最大限発揮しうる戦略を策定する。 ※ 三井住友海上およびあいおいニッセイ同和損保は、それぞれの自主性を最大限に発揮した事業運営を行う。

【2010年4月の姿】



【2010年10月の姿】



事業ドメインと個別戦略

国内損害保険、国内生命保険、海外、金融サービス、リスク関連サービスを事業ドメインとし、それぞれの事業を拡大することにより、グループとして成長する

国内損害保険事業 ・三井住友海上 ・あいおいニッセイ同和損保 ・三井ダイレクト損保	・多様な営業基盤・顧客基盤にふさわしい、魅力的な商品・サービスを開発して提供 ・マーケットごとのお客さまニーズに応えられるビジネスモデルの展開と、成長領域への集中的な資源投入により、販売力を強化 ・三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保のノウハウ・仕組みを活用して業務プロセスの品質を向上させ、ベストプラクティスを創造 ・事務・システムの統合、営業・損害サービス拠点の統合等により、事業費を大幅に削減し、経営効率の向上を実現 ・成長性の高い通販マーケットで、収益性を確保しつつ、事業を拡大
国内生命保険事業 ・あいおい生命 ・三井住友海上きらめき生命 ・三井住友海上メットライフ生命	・拡大した営業基盤を活用して、クロスセルを軸に、金融機関、生保代理店、直販チャネルを通じて、魅力的な商品・サービスをお客さまに提供し、成長を加速 ・個人年金分野では、お客さまのニーズに応じた商品提供と販売力の強化により、リーディングカンパニーとしての地位を確立
海外事業	・アジア地域において、トップクラスの事業基盤・優位性を活用し、積極的に事業展開 ・欧州において、地域的拡大・サービス体制の充実、収益を追求し、米州は堅実な収益を確保 ・選択と集中による戦略地域・分野への積極的な新規事業投資 ・海外再保険ビジネスの拡充
金融サービス事業	・商品力・販売力の強化によるアセット・マネジメント事業の拡大 ・金融市場の構造変化に対応した金融保証事業の再構築 ・企業・個人双方のニーズに対応する401k事業の積極推進 ・ART事業、個人融資関連事業、ベンチャー・キャピタル事業の拡大
リスク関連サービス事業	・お客さまのリスク・ソリューションに資する保険以外のサービスを提供（リスクマネジメント事業、介護事業、資産評価鑑定事業、アシスタンス事業） ・環境変化のトレンドを踏まえ、新規ビジネスの発掘を推進

中期的到達目標（経営数値目標）

■ 目標事業ポートフォリオ （単位：億円）

	2008年度（実績）	2013年度（目標）
グループ利益指標 ※	△271億円	1，500億円
国内損保	76億円	1，000億円（67%）
国内生保	△36億円	150億円（10%）
海外	△286億円	300億円（20%）
金融サービス／リスク関連サービス	△24億円	50億円（3%）

（）内は構成比

■ 目標数値

	2008年度（実績）	2013年度（目標）
連結正味収入保険料	25，911億円	27，000億円
生保　保有契約　年換算保険料※1	2，652億円	3，300億円
グループROE※2	－	7%

※1：あいおい生命と三井住友海上きらめき生命の合算値（団体保険を除く）

※2：グループROE＝グループコア利益÷期初・期末平均連結純資産（除く少数株主持分）。08年度はマイナスにつき、非表示

※グループ利益指標
グループコア利益=連結当期利益－株式キャピタル損益（売却損益等）－クレジットデリバティブ評価損益－その他特殊要因＋非連結グループ会社持分利益

中期的到達目標（統合のシナジー効果）

- グループ会社それぞれの強みを活かし、お客さまへのサービスの品質向上を通じて顧客基盤の拡大を図るとともに、事務、システムなどをはじめとする非競争領域の共有化、標準化を進めることによる効率化、業務品質の向上を実現する
- 経営統合により、2013年度に年400億円以上、最終的に年500億円規模のシナジー効果を見込む（2008年度対比）

【2013年度の統合効果見込み（2008年度対比）】

三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保のシステム統合によるシステム開発・運営コストの効率化	▲120億円（2015年度以降　200億円）
営業拠点、損害サービス拠点の統合や不動産の有効活用 物流・印刷コストの効率化	▲100億円
業務運営・態勢の見直し等による外注費・活動費・人件費等の効率化	▲150億円
成長市場への経営資源の重点配分と緊密得意先マーケットの深耕 各社の引受・損害予防ノウハウ共有による損害率改善 海外ネットワークの相互活用等	▲ 50億円

統合効果

2013年度（2008年度対比）
年▲400億円以上

2015年度以降（2008年度対比）
年▲500億円規模

なお、システム統合等の一時的なコストとして累計で約700億円を見込む

資本政策の基本方針

❑ **グローバルな保険・金融グループの実現に向けて、国内外の成長性の高い領域に資源を配分し、グループの成長と事業ポートフォリオの多様化を目指す**

- 国内外において品質向上への投資を継続する一方、成長性の高い領域（アジアの生保事業、アセアンの損保事業、欧州等）へ積極的に投資し、グローバルに保険・金融事業を展開する。

❑ **財務の健全性を確保するため、リスクと資本の管理態勢を整備するとともに、リスク性資産の圧縮と資本の有効活用を進め、資本効率を向上する**

- ダブルA格の格付を中長期的に維持することを基本とする。
- グループベースのリスクと資本管理態勢を強化し、グループ統一のフレームワークのもとでの管理を推進する。
- 金融環境の悪化に備えてリスク性資産の圧縮を進め、強固な財務体質を維持するとともに、資本の有効活用を図る。
- 戦略株式の管理手法を一元化し、保有効率の統一的な管理、グループトータルでのリスクおよびリターンの管理を実施するとともに、市場の状況を見ながら残高を抑制する。

❑ **配当および自己株式取得を通じ、中期的にグループコア利益の50%を目処として、株主への利益還元を行う**

- 統合効果の発揮、成長戦略の推進により収益を拡大し、それによって株主還元を増大していく。
- 1株あたりの配当水準の安定性を維持することを基本とし、中期的に収益力を高めることによって、増配基調を目指す。
- 自己株式の取得は、資本の状況も勘案して実施する。

損保領域のシステム統合の方針

- **次世代商品・サービスを、商品開発から契約手続き・保険金支払いまで、トータルでサポートする最先端のシステムを構築し、業務のあらゆるプロセスにおける品質と生産性向上を実現する**
- **システム領域における開発・運営コストを全体で20%以上削減する**

統合の方法・時期	・新たなインフラを共同構築し、2013年4月に共同インフラを稼動させる。 ・第一ステップとして、合併新会社の円滑な業務遂行のためにあいおい損保とニッセイ同和損保のシステムを2010年10月に統合する。その後、2013年4月から共同インフラに移行し、2014年4月にシステム統合の完了を目指す。 ・システム統合委員会を設置し、新システムの構築・稼動までを対象として、システム統合の進捗とリスクの管理を行う。

システム統合委員会の概要	**設置目的**	・システム統合のリスク管理・進捗管理を実施
	機能	・システム統合に係る重要事項の協議 ・プロジェクトの進捗管理 ・システム移行の判定
	体制	・持株会社、三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保のシステム部門担当役員、部長を中心に構成 ・原則月1回開催
	第三者評価	・第三者機関を起用して、システム統合を含む統合リスク管理態勢の評価を実施

統合効果を発揮するための具体的施策

品質向上

品質向上	・全ての業務プロセスにおいて絶え間なく品質向上に取り組み、お客さまの信頼を獲得。そのために、お客さまにとって分かりやすい商品・サービスの提供、お客さまに信頼される販売網の構築、適正な保険金支払いと迅速・丁寧な対応を実践 ・商品・サービスの品質向上を支える事務・システム基盤の整備を推進
健全性の確保	・持続的な企業価値の向上、財務健全性の維持・向上を図るため、グループとしてリスク管理の高度化を推進

成長力

国内損保	・成長力の高い市場に経営資源を重点的に配分してマーケットシェアを拡大 ・緊密得意先マーケットの深耕を推進
国内生保	・グループシナジーを発揮し、各チャネルに適した施策の展開によって成長を加速 ・グループとして金融機関チャネルを通じた生命保険・個人年金保険の総合的な販売を推進
海　外	・日系損保トップの海外ネットワークを活用し、国内外のマーケット開拓・深耕を推進 ・成長性および収益性の見込まれる地域・分野に各社のノウハウ・商品・経営資源を重点的に投入し、事業を拡大
金融サービス、リスク関連サービス	・営業基盤の拡大を活用した顧客ニーズへの対応を推進
事業の拡大	・強みを活かせる分野への事業の拡大・進出を、事業提携・M&Aを含め、積極的に検討 ・拡大した資本力・人財を活用し、特に海外において生損保事業を拡大

収益力

業務効率化	・国内損保事業の事業運営コストを、システム経費とそれ以外のトータルで2015年度に約450億円削減
事務・システム	・2013年4月までに三井住友海上・あいおいニッセイ同和損保共同の新システムを構築。最終的にシステム開発・運営コストの20%以上を削減 ・業務プロセス改革によって業務効率を向上、これを踏まえた共同システムを構築することにより、一層の低コストオペレーションを実現
拠　点	・3社保有不動産の相互利用等による有効活用、合併する2社の同一エリア内で重複する約2割の営業拠点、損害調査拠点の統合等により、コストを削減
販売網	・世界トップ水準の保険・金融グループに相応しく、高品質で、お客さまに信頼される代理店網を構築
保有・再保険政策	・グループ内保有の推進、再保険キャパシティの拡大、及び海外再保険事業の拡充により、グループ収益力を極大化 ・グローバルベースでの保険引受ポートフォリオの多様化により、収支構造を安定化
資産運用	・グループの運用資産の拡大と各社のノウハウを活用して、安定的な運用収益力を強化 ・非効率銘柄を中心に戦略株式の残高を抑制
海　外	・事務所・現法の統合を進め、効率化を推進 ・41カ国・地域の海外ネットワークの有効活用によって、グループの保険料収入・手数料を増加
国内生保	・三井住友海上きらめき生命とあいおい生命は、3社経営統合後、早期に合併することを目指す
人事・要員戦略	・成長領域への要員シフト、全社員の役割高度化等により、要員の最適配分と生産性の向上を推進

主な共同取組

領域	具体取組	時期
海外事業	・グループ内元受ファシリティーの相互活用による、商品・サービスの提供 ・グループ内海外子会社・関連会社への出向等、人事交流を推進	・2009年10月～ ・2009年10月～
事務・システム	・業界をリードする新システムの共同構築 ・新システムにおける事務共通化の実施 ・コンタクトセンター・システム基盤の共同利用	・2013年4月 ・2013年4月～ ・2012年1月～
代理店教育システム・ツール	・代理店教育制度における事前教育の共同実施 ・代理店教育ツールの共通化 ・代理店教育管理システムの共同利用	・2010年1月～ ・2010年4月～ ・2010年10月～
商品・サービス	・リスクコンサルティング会社のサービスプログラム共同利用（セミナーの共催など） ・保険法対応の社員・代理店向け研修ツールの共同作成と研修での活用	・2009年10月～ ・2009年7月～
国際会計基準経理業務	・国際会計基準への共同対応 ・連結財務会計システム「グローバル経営管理システム」の活用 ・経費計上システムの共通化	・2009年10月～ ・2010年4月～ ・2011年4月～
シェアードサービス	・共通の機能をもつグループ会社（総務・不動産関連、事故受付、事務、システム等）の統合等を含む、バックオフィス業務のシェアード化推進 ・グループ内物流ネットワーク、印刷物作成・発送の共同化	・2010年10月～ ・2010年10月～
その他	・損調子会社の相互活用 ・リスクコンサルティング、調査・研究、融資・保証の事業を行う関連会社の統合 ・共通の資産運用リスク計測システムを活用して、資産負債の統合管理を推進 ・ART（代替的リスク移転）商品の販売提携や共同開発 ・人財交流によるノウハウ共有、女性活躍推進等の協調取組を実施 ・Web約款導入による環境対策への合同取組 ・大規模災害発生時の協力体制構築 ・環境ISO取組を通じたCO2等の環境負荷削減と、生物多様性保全活動の実施	・2009年10月～ ・2010年4月 ・2010年4月～ ・2010年4月～ ・2009年10月～ ・2010年1月～ ・2010年4月～ ・2010年4月～

2010年度 第1回インフォメーションミーティング

資料編

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社

【参考資料】
2009年度決算の概要・2010年度決算（通期）見込

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

2009年度決算の概要（MS&ADｲﾝｼｭｱﾗﾝｽ ｸﾞﾙｰﾌﾟの単純合算値）	2ページ
2009年度決算・通期見込（MS&ADホールディングス（連結））	3ページ

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

2009年度決算の概要（MS＆ADインシュアランス グループの単純合算値）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2008年度	2009年度		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,910	25,190	△ 720	△ 2.8%
経常利益	△ 529	991	1,520	-
当期純利益	△ 94	573	668	-

※三井住友海上グループホールディングス（連結）、あいおい損保（連結）、ニッセイ同和損保（単体）の単純合算値
「もどりッチファンド」（自動車保険「もどりッチ」（満期精算型払戻金特約付契約）の払戻充当保険料）を除いたベース　以下同じ

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2008年度	2009年度		
			前期比	増収率
三井住友海上（単体）	12,393	12,037	△ 356	△ 2.9%
海外事業子会社	1,819	1,587	△ 232	△ 12.8%
あいおい損保（単体）	8,166	7,940	△ 226	△ 2.8%
海外事業子会社	134	174	39	29.2%
ニッセイ同和損保（単体）	3,109	3,126	17	0.6%
三井ダイレクト損保	296	324	27	9.3%

※連結調整前ベース

当期純利益の内訳

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
三井住友海上（単体）	465	254	△ 211
海外事業子会社	△ 229	202	432
あいおい損保（単体）	△ 95	181	277
海外事業子会社	△ 31	△ 29	2
ニッセイ同和損保（単体）	△ 67	30	97
三井ダイレクト損保	△ 15	△ 6	8
三井住友海上きらめき生命	0	0	△ 0
あいおい生命	8	13	5
三井住友海上メットライフ生命	△ 44	44	89
その他	△ 9	6	16
連結調整等	△ 74	△ 123	△ 48

※子会社の利益は、出資持分ベース

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜正味収入保険料＞

▼ MS＆ADインシュアランスグループの連結正味収入保険料（単純合算値）は、2兆5，190億円（業界トップ）

▼ 連結正味収入保険料の内訳

・三井住友海上単体、あいおい損保単体の2社は減収、ニッセイ同和単体は＋0．6%の増収
単体3社の合計では△2．4%（△565億円）の減収、このうち自賠責保険が△261億円の減収

・三井住友海上傘下の海外事業子会社は、前期に続き円高（期中）の影響を主因に前期比△12．8%の減収

・三井ダイレクトは、＋9．3%増収し、順調に収保を拡大

＜当期純利益＞

▼ 当期純利益（単純合算値）は573億円と、金融危機の影響を強く受けた前期決算に比べ資産運用収支が大幅に改善したことを主因に、前期比＋668億円の増益

▼当期純利益の内訳

・三井住友海上単体は、経常利益では増益となるが、当期純利益は前期を△211億円下回る減益

・三井住友海上傘下の海外事業子会社は、前期にあった大口ロスの反動を主因に、＋432億円の増益

・あいおい損保単体、ニッセイ同和損保単体は、いずれも黒字に回復、あわせて＋375億円の増益

・三井住友海上メットライフ生命は、初の黒字化を達成。当社持分で＋89億円の増益

2010年度決算・通期見込（MS&ADホールディングス(連結)）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2009年度	2010年度		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,190	25,800	610	2.4%
経常利益	991	860	△ 131	△ 13.2%
当期純利益	573	510	△ 63	△ 11.1%

※「前期比」は、前ページの3社グループ単純合算値との比較

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2009年度	2010年度		
			前期比	増収率
三井住友海上(単体)	12,037	12,280	243	2.0%
海外事業子会社	1,587	1,700	112	7.1%
あいおいニッセイ同和損保(単体)	11,067	11,230	163	1.5%
海外事業子会社	174	246	72	41.2%
三井ダイレクト損保	324	345	21	6.5%

※「あいおいニッセイ同和損保(単体)」は、あいおい損保(単体)とニッセイ同和損保(単体)の単純合算値

当期純利益の内訳

（億円）

	2009年度	2010年度	
			前期比
三井住友海上(単体)	254	260	5
海外事業子会社	202	164	△ 38
あいおいニッセイ同和損保(単体)	212	20	△ 192
海外事業子会社	△ 29	△ 14	15
三井ダイレクト損保	△ 6	0	7
三井住友海上きらめき生命	0	△ 28	△ 28
あいおい生命	13	5	△ 8
三井住友海上メットライフ生命	44	35	△ 9
その他	6	3	△ 3
連結調整等	△ 123	64	188

※子会社の利益は、出資持分ベース

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜正味収入保険料＞

▼ 連結ベースの正味収入保険料は2兆5，800億円となり、前期比＋610億円、＋2．4%の増収

▼ 連結正味収入保険料の内訳

・三井住友海上は、前期比＋243億円増収の1兆2，280億円

・あいおい損保とニッセイ同和損保の合算では、前期比＋163億円増収の1兆1，230億円

・海外事業子会社は、三井住友海上、あいおいニッセイ同和の子会社合算で、前期比＋184億円の1，945億円

・三井ダイレクトは、前期比＋21億円、増収率6．5%の345億円

＜当期純利益＞

▼ 当期純利益は、グループ全体で統合関連費用を350億円見込んでいることもあり、前期比△63億円の510億円

▼ 当期純利益の内訳

・三井住友海上は、経常利益では100億円規模の増益を見込むが、特別損益として統合関連費用などの一時的費用の負担もあり、前期比＋5億円の260億円

・あいおいニッセイ同和は、10月の合併に伴う統合関連費用を約300億円を見込んでおり、前期比△192億円の20億円

・海外事業子会社は、三井住友海上、あいおいニッセイ同和の子会社合算で、前期比△23億円の150億円

・三井ダイレクトは、前期比＋7億円となり、黒字化を見込む。

・三井住友海上きらめき生命は、今期に標準責任準備金を一括して積み立てることを想定しており、△28億円の赤字

・三井住友海上メットライフ生命は、前期比△9億円の35億円

・連結調整等には、「負ののれん発生益」の見込額、140億円を含む。

【参考資料】
2009年度決算の概要

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上（単体）	6ページ
三井住友海上（単体）：種目別保険料・損害率	7ページ
三井住友海上（単体）：社費・事業費率	8ページ
三井住友海上（単体）：資産運用	9ページ
三井住友海上の海外子会社	10ページ
三井住友海上きらめき生命・三井住友海上メットライフ生命	11ページ

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

三井住友海上（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
正味収入保険料	12,393	12,037	△356
正味保険料 増収率	△5.2%	△2.9%	2.3pt
正味損害率	69.5%	70.3%	0.8pt
正味事業費率	34.0%	34.5%	0.5pt
コンバインド・レシオ	103.5%	104.8%	1.3pt
インカードロス	7,543	7,526	△16
保険引受利益	324	△159	△484
資産運用損益	△19	577	597
経常利益	255	357	102
特別損益	236	△26	△263
当期純利益	465	254	△211
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	△2.2%	△2.0%	0.2pt
正味損害率	65.3%	65.7%	0.4pt
正味事業費率	35.5%	35.8%	0.3pt
コンバインド・レシオ	100.8%	101.5%	0.7pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース。

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 正味収入保険料は、△2．9%の減収（自賠責保険を除くベースでは△2．0%の減収）
  海上保険が経済環境悪化に伴う物流の減少などにより減収したほか、自賠責保険も2008年4月の保険料率引下げの影響が残り減収
- ▼ 正味損害率は、保険金と損害調査費が減少したものの、保険料が減収した影響により、前期比＋0．8ptの上昇（自賠責保険を除くベースでは＋0．4ptの上昇）
- ▼ 正味事業費率は、34．5%となり、前期比＋0．5ptの上昇(自賠責保険を除くベースでは＋0．3ptの上昇)
- ▼ コンバインド・レシオは104．8%となり、前期比＋1．3pt上昇（自賠責保険を除くベースでは＋0．7ptの上昇）
- ▼ 保険引受利益は△159億円となり、前期比△484億円の減益
  異常危険準備金の繰入額が前期比＋271億円増加したことが主因
- ▼ 資産運用損益は577億円。金融危機の影響を受けた前期（△19億円）に比べて、＋597億円の増加
- ▼ 以上の結果、経常利益は357億円となり、前期比＋102億円の増益
- ▼ 特別損益は△26億円。前期は価格変動準備金を多額に取り崩した（繰入れと取崩しのネットで259億円）こともあり、前期比△263億円の減少
- ▼ 当期純利益は254億円となり、前期比△211億円の減益

三井住友海上(単体): 種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

(億円)

	2008年度	2009年度	
			増収率
火 災	1,761	1,794	1.8%
海 上	641	519	△19.1%
傷 害	1,289	1,294	0.4%
自 動 車	5,411	5,367	△0.8%
自 賠 責	1,482	1,346	△9.2%
そ の 他	1,806	1,715	△5.0%
合 計	12,393	12,037	△2.9%
除く自賠責	10,911	10,690	△2.0%

正味損害率

	2008年度	2009年度	
			前期比
火 災	42.6%	43.3%	0.7pt
海 上	51.5%	61.7%	10.2pt
傷 害	60.4%	62.9%	2.5pt
自 動 車	73.2%	73.4%	0.2pt
自 賠 責	99.8%	107.3%	7.5pt
そ の 他	72.3%	68.2%	△4.1pt
合 計	69.5%	70.3%	0.8pt
除く自賠責	65.3%	65.7%	0.4pt

インカードロス

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前期比
インカードロス(除く損調費)	7,543	7,526	△16
自然災害	60	156	96
自然災害以外	7,482	7,370	△112

※インカードロス=正味支払保険金+普通備金積増+IBNR備金積増

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 正味収入保険料

・「火 災」は、住友生命との提携効果などもあり、前期比+1.8%の増収

・「海 上」は、経済環境悪化に伴う物流の減少や円高の影響などを受け、前期比△19.1%の減収

・「自動車」は、主に上期における国内自動車販売の低迷の影響により、前期比△0.8%の減収

▼ 正味損害率

・「火 災」は、自然災害に係る支払保険金が増加したことから、前期比+0.7ptの上昇

・「傷 害」は、普通傷害保険を中心に支払保険金が増加したことから、前期比+2.5ptの上昇

・「自動車」は、支払保険金は減少したものの、保険料の減収が影響し、前期比+0.2ptの上昇

・「その他」は、大口事故に係る保険金支払が減少したことなどから、前期比△4.1ptの改善

< 当期発生の自然災害 >

(億円)

	2008年度			2009年度		
	正味保険金	支払備金	合計	正味保険金	支払備金	合計
火災	26	3	29	99	17	117
海上	0	0	0	0	0	1
自動車	25	0	25	20	0	21
その他	3	1	5	10	5	15
合計	55	5	60	131	24	156

三井住友海上(単体): 社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前期比
保険引受社費	2,131	2,078	△52
損害調査費	761	744	△16
その他	128	110	△17
社費合計	3,021	2,934	△87
人件費	1,526	1,565	38
物件費	1,352	1,230	△121
税金・拠出金等	142	137	△4

事業費率

	2008年度	2009年度	
			前期比
正味手数料率	16.8%	17.2%	0.4pt
正味社費率	17.2%	17.3%	0.1pt
正味事業費率	34.0%	34.5%	0.5pt
同 (除く自賠責)	35.5%	35.8%	0.3pt

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 社費合計は、前期を△87億円下回る2，934億円

▼ 人件費は、退職給付費用が増加したこともあり、前期比＋38億円の増加、
物件費は、業務効率化などにより経常的な費用の削減に取り組んだほか、システム開発費の一部を資産計上(約50億円)したこともあり、前期比△121億円の減少

▼ 正味事業費率は34．5%　前期比＋0．5ptの上昇
・正味手数料率　17．2%（前期比＋0．4pt）
・正味社費率　17．3%（前期比＋0．1pt）

▼ 除く自賠責ベースの正味事業費率は35．8%　前期比＋0．3ptの上昇

三井住友海上(単体): 資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前期比
グロス利配収入	1,378	1,174	△ 203
積立保険料等運用益振替	528	540	12
ネット一般利配収入	850	634	△ 216
有価証券売却損益	602	2	△ 600
有価証券評価損	△ 1,095	△ 48	1,046
有価証券償還損益	△ 57	△ 21	36
金融派生商品損益	△ 7	252	260
その他	△ 312	△ 241	70
資産運用損益	△ 19	577	597

グロス利配収入の主な内訳

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前期比
公社債	296	294	△ 1
株式	466	273	△ 193
外国証券	296	291	△ 4
その他有価証券	20	44	23
貸付金	154	143	△ 11
不動産	71	74	2
その他	71	53	△ 18
合計	1,378	1,174	△ 203

運用資産別構成比

(億円)

	2009年度末	
		構成比
公社債	16,568	29.5%
株式	17,239	30.7%
外国証券	9,004	16.1%
その他有価証券	461	0.8%
貸付金	7,185	12.8%
不動産	2,177	3.9%
その他	3,453	6.2%
合計	56,089	100.0%

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ グロス利配収入は、国内株式からの配当金の減少を主因に、前期比△203億円の減少
  ネット一般利配収入は、前期比△216億円の減少
- ▼ 有価証券売却損益は、前期比△600億円の減少
- ▼ 有価証券評価損は、金融危機の影響で評価損が1，095億円まで膨らんだ前期から大幅に減少

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前年同期比
公社債	20	―	△ 20
株式	357	29	△ 328
外国証券	475	14	△ 460
その他	242	5	△ 237
合計	1,095	48	△ 1,046

- ▼ 金融派生商品損益は、クレジット・デリバティブの時価が回復したことなどから252億円となり、
  前期比＋260億円の増加
- ▼ 以上の結果、資産運用損益は577億円となり、前期比＋597億円の増加

三井住友海上の海外子会社

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2008年度	2009年度		
			前期比	増収率
子会社　合計	1,819	1,587	△ 232	△ 12.8%
アジア	707	652	△ 55	△ 7.8%
欧州	617	477	△ 140	△ 22.8%
米州	239	249	10	4.4%
再保険	255	208	△ 46	△ 18.4%

当期純利益

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
子会社　合計	△ 229	202	432
アジア	29	91	61
欧州	△ 313	10	323
米州	11	19	7
再保険	41	80	39

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜正味収入保険料＞

▼ 海外子会社の正味収入保険料は、期中の為替が円高で推移した影響により、1，587億円と、前期比△232億円、△12．8%の減収

▼ 円高による影響は△298億円（試算）、現地通貨ベースでの増収率は＋3．6%

＜当期純利益＞

▼ 海外子会社の当期純利益は202億円と、前期比＋432億円の増益

・前期にあった大口ロスの反動により、欧州が大きく回復

・インカードロス（含む自然災害）の減少と資産運用収支の改善により、アジア・米州・再保険も前期比増益

三井住友海上きらめき生命・三井住友海上メットライフ生命

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上きらめき生命

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
新契約高	16,539	15,872	△ 4.0%
保有契約高	90,308	94,447	4.6%
保有契約年換算保険料	1,943	1,945	0.1%
当期純利益	0.4	0.3	△ 0.0
実質当期純利益 ※	24	28	3

※ 旧グループコア利益算出における標準責任準備金積立前の当期純利益

三井住友海上メットライフ生命

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
新契約高	5,929	4,081	△ 31.2%
保有契約高	24,787	31,375	26.6%
保険料	6,192	4,436	△ 28.4%
当期純利益（当社持分）	△ 44	44	89
米国基準当期純利益 ※（当社持分）	6	36	30

※ 旧グループコア利益算出における米国基準当期純利益

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜三井住友海上きらめき生命＞

- ▼ 新契約高は、単価ダウンおよび法人契約の減少等により、前期比△4．0%減少
- ▼ 保有契約高は、前期比＋4．6%増と、堅調な伸びを継続
- ▼ 保有契約年換算保険料は前期比＋0．1%と横ばい、第三分野でみると＋17．1%（＋49億円）と高い伸び
- ▼ 標準責準達成に向け責任準備金を純利益が1億円未満となるまで積み増した結果、当期純利益は37百万円 （当期の責任準備金積増額は44億円）
- ▼ 実質当期純利益は、28億円と前期比＋3億円の増益

＜三井住友海上メットライフ生命＞

- ▼ 新契約高は、件数および契約単価の低下により、前期比△31．2%の減少
- ▼ 保有契約高は、運用環境の回復等を背景に変額年金の預り資産が増加し、前期比＋26．6%の増加
- ▼ 保険料は、一部変額商品の売り止めおよび商品改定等により、前期比△28．4%の減少
- ▼ 当期純利益（当社持分）は、運用環境の回復に伴い資産運用益が増加したことに加え、事業費の減少もあって、前期比＋89億円の増益となり、44億円の黒字
- ▼ 従前グループコア利益算出に用いていた米国基準当期純利益（当社持分）は、前期比＋30億円増加保有契約高の増加に伴う保険関係費収入の増加および運用収益の増加が主因

【参考資料】
2009年度決算の概要

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおい損保（単体）	14ページ
あいおい損保（単体）：種目別保険料・損害率	15ページ
あいおい損保（単体）：社費・事業費率	16ページ
あいおい損保（単体）：資産運用	17ページ
あいおい損保の海外子会社	18ページ
あいおい生命	19ページ

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

あいおい損保（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
正味収入保険料	8,166	7,940	△226
正味保険料 増収率	△4.1%	△2.8%	1.3pt
正味損害率	65.0%	67.3%	2.3pt
正味事業費率	34.6%	35.5%	0.9pt
コンバインド・レシオ	99.6%	102.8%	3.2pt
インカードロス	4,825	4,999	174
保険引受利益	185	△40	△226
資産運用損益	△410	387	797
経常利益	△203	373	577
特別損益	66	△103	△170
当期純利益	△95	181	277
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	△0.8%	△1.8%	△1.0pt
正味損害率	60.6%	62.5%	1.9pt
正味事業費率	35.5%	36.3%	0.8pt
コンバインド・レシオ	96.1%	98.8%	2.7pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース。

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 正味収入保険料は、△2．8%の減収
  自賠責保険が保険料率引下げの影響で大きく減収したほか、
  景気の低迷、国内自動車販売の不振の影響もあり、全種目で減収（自賠責保険を除くベースでは△1．8%の減収）
- ▼ 正味損害率は、損害調査費の増加に加え、保険料が減収したこともあり、
  前期比 ＋2．3ptの上昇（自賠責保険を除くベースでは＋1．9ptの上昇に縮小）
- ▼ 正味事業費率は、社費の増加及び保険料の減収により、前期比＋0．9ptの上昇
- ▼ コンバインド・レシオは102．8%となり、前期比＋3．2pt上昇 （自賠責保険を除くベースでは＋2．7ptの上昇）
- ▼ 保険引受利益は△40億円と、自然災害に係る保険金の増加、損害調査費の増加を主因に
  前期比△226億円の減益
- ▼ 資産運用損益は387億円と、有価証券評価損の減少、金融派生商品損益の増加を主因に、
  前期比＋797億円 の増加
- ▼ 以上の結果、経常利益は373億円となり、前年同期比＋577億円の増益となった。
- ▼ 特別損益は価格変動準備金積増の増加（前期比＋72億円）及び統合関連費用（82億円）を主因として、
  前年同期を170億円下回る△103億円
- ▼ 当期純利益は181億円となり、前期比＋277億円の増益

あいおい損保(単体): 種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

(億円)

	2008年度	2009年度	
			増収率
火 災	1,027	1,020	△0.6%
海 上	55	37	△33.2%
傷 害	460	450	△2.2%
自 動 車	4,668	4,658	△0.2%
自 賠 責	1,197	1,095	△8.5%
そ の 他	757	677	△10.6%
合 計	8,166	7,940	△2.8%
除く自賠責	6,969	6,844	△1.8%

正味損害率

	2008年度	2009年度	
			前期比
火 災	35.9%	38.7%	2.8pt
海 上	64.3%	73.3%	9.0pt
傷 害	50.0%	52.8%	2.8pt
自 動 車	64.8%	67.0%	2.2pt
自 賠 責	90.2%	97.3%	7.1pt
そ の 他	74.7%	73.0%	△1.7pt
合 計	65.0%	67.3%	2.3pt
除く自賠責	60.6%	62.5%	1.9pt

インカードロス

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前期比
インカードロス(除く損調費)	4,825	4,999	174
自然災害	29	63	34
自然災害以外	4,796	4,936	140

※インカードロス=正味支払保険金+普通備金積増+IBNR備金積増

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 正味収入保険料

・「火 災」は、住宅着工件数の低迷の影響などを受け、前期比△0.6%の減収

・「海 上」は、景気低迷による荷動き不振等により、前期比△33.2%の減収

・「自動車」は、等級進行・車両の小型化等による単価減等により前期比△0.2%の減収

▼ 正味損害率

・「火 災」は、自然災害に係る保険金の増加(前期比+35億円)もあり、前期比+2.8ptの上昇

・「海 上」は、支払い保険金は減少したものの、保険料の減収が大きく前期比+9.0ptの上昇

・「傷 害」は、保険金が増加したことに加え、保険料が減収したこともあり、前期比+2.8ptの上昇

・「自動車」は、保険金・損害調査費の増加と保険料の減収が影響し、前期比+2.2ptの上昇

< 当期発生の自然災害 >

(億円)

	2008年度			2009年度		
	正味保険金	支払備金	合計	正味保険金	支払備金	合計
火災	7	0	8	42	6	48
自動車	18	0	18	10	0	10
その他	2	0	3	3	1	4
合計	28	1	29	56	7	63

あいおい損保(単体): 社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

(億円)

	2008年度	2009年度	
			前期比
保険引受社費	1,383	1,416	33
損害調査費	370	437	67
その他	81	75	△5
社費合計	1,834	1,930	95
人件費	916	958	42
物件費	821	881	59
税金・拠出金等	96	89	△6

事業費率

	2008年度	2009年度	
			前期比
正味手数料率	17.6%	17.6%	0.0pt
正味社費率	16.9%	17.8%	0.9pt
正味事業費率	34.6%	35.5%	0.9pt
同 (除く自賠責)	35.5%	36.3%	0.8pt

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 社費合計は、損害調査ソフト開発費の増加等により前期を＋95億円上回る1，930億円

▼ 人件費は数理差異償却費の増加等により前期比＋42億円、物件費がシステム関係費の増加などにより前期比＋59億円

▼ 正味事業費率は35．5%　前期比＋0．9ptの上昇

・正味手数料率　17．6%（前期比＋0．0pt）

・正味社費率　17．8%（前期比＋0．9pt）

▼ 除く自賠責ベースの正味事業費率は36．3%　前期比＋0．8ptの上昇

あいおい損保（単体）：資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
グロス利配収入	429	487	57
積立保険料等運用益振替	202	183	△ 18
ネット一般利配収入	227	303	75
有価証券売却損益	439	131	△ 308
有価証券評価損	△ 624	△ 29	594
金融派生商品損益	△ 118	81	199
その他運用損益	△ 335	△ 99	236
資産運用損益	△ 410	387	797

グロス利配収入の主な内訳

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
公社債	102	79	△ 23
株式	94	78	△ 15
外国証券	91	143	52
その他有価証券	7	58	50
貸付金	67	65	△ 2
不動産	52	50	△ 1
その他	13	10	△ 2
合計	429	487	57

運用資産別構成比

（億円）

	2009年度末	
		構成比
公社債	4,391	21.5%
株式	4,147	20.3%
外国証券	4,522	22.1%
その他有価証券	800	3.9%
貸付金	3,241	15.9%
不動産	1,386	6.8%
その他	1,952	9.5%
合計	20,443	100.0%

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ グロス利配収入は、外国証券及びその他有価証券からの利配増加を主因に前期比＋57億円増加。
積立保険料等運用益振替は前年同期を△18億円下回り、ネット一般利配収入は、
前期比＋75億円増加し303億円

▼ 有価証券売却損益は、前期比△308億円の減少

▼ 市場環境の改善の影響を受け、有価証券評価損（29億円）は前年同期を594億円下回る。

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前年同期比
公社債	4	-	△ 4
株式	254	15	△ 239
外国証券	248	4	△ 244
その他	116	9	△ 106
合計	624	29	△ 594

▼ 金融派生商品損益は81億円と、前期比＋199億円の改善

▼ 以上の結果、資産運用損益は387億円となり、前期比＋797億円の増加

あいおい損保の海外子会社

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2008年度	2009年度		
			前期比	増収率
子会社　合計	134	174	40	29.2%
アジア	-	3	3	-
欧州	134	170	35	26.5%

当期純利益

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
子会社　合計	△ 31	△ 29	2
アジア	-	△ 1	△ 1
欧州	△ 31	△ 28	3

※上記は連結対象子会社数値

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜正味収入保険料＞

▼ 海外子会社の正味収入保険料は174億円と前期比＋40億円、＋29．2%の増収

・英国子会社「あいおいモーター＆ジェネラル」は欧州での自動車保険が順調に拡大したことにより前期比＋35億円、＋26．5%の増収

中国子会社は2009年度より現地法人となり事業展開の拡大もあり収保3億円となる。

＜当期純利益＞

▼ 海外子会社の当期純利益は△29億円と、前期比＋2億円の改善

・英国子会社「あいおいモーター＆ジェネラル」は前期比＋3億円の改善

・中国子会社は事業開始から間もないため、事業費が先行

あいおい生命

あいおい生命

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
新契約高（除く団保）	10,437	10,594	1.5%
保有契約高	74,711	81,657	9.3%
保有契約 年換算保険料	708	735	3.8%
当期純利益	8	13	5

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 新契約高は、前期比＋1．5%増加
- ▼ 保有契約高は、前期比＋9．3%増と、着実に増加
- ▼ 保有契約年換算保険料は、新商品の販売効果もあり個人保険契約が拡大し前期比＋3．8%の増加
- ▼ 当期純利益は新契約及び保有契約が順調に拡大し前期比＋5億円の13億円の利益となる。

【参考資料】
2009年度決算の概要

MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

ニッセイ同和損保（単体）	22ページ
ニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率	23ページ
ニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率	24ページ
ニッセイ同和損保（単体）：資産運用	25ページ

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

ニッセイ同和損保（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
正味収入保険料	3,109	3,126	17
正味保険料 増収率	△2.3%	0.6%	2.9pt
正味損害率	67.4%	68.8%	1.4pt
正味事業費率	34.6%	33.8%	△0.8pt
コンバインド・レシオ	102.0%	102.6%	0.6pt
インカードロス	1,936	1,987	50
保険引受利益	△87	△102	△15
資産運用損益	△51	228	279
経常利益	△168	100	269
特別損益	61	△64	△125
当期純利益	△67	30	97
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	0.3%	1.5%	1.2pt
正味損害率	63.8%	65.1%	1.3pt
正味事業費率	35.8%	34.5%	△1.3pt
コンバインド・レシオ	99.6%	99.6%	0.0pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース。

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 正味収入保険料は、＋0．6%の増収(自賠責保険を除くベースでは＋1．5%の増収)
  業界の減収基調の中、自動車保険・火災保険の主力商品で増収を確保
- ▼ 正味損害率は、自動車保険の事故受付件数が増加したこと、火災保険では台風等による自然災害保険金が増加したことから、前期比 ＋1．4ptの上昇（自賠責保険を除くベースでは＋1．3ptの上昇）
- ▼ 正味事業費率は、経営品質革新のための投資を続ける一方で、経費の効率的な支出に努めた結果、前期 比△0．8pt低下（自賠責保険を除くベースでは△1．3ptの低下）
- ▼ コンバインド・レシオは102．6%となり、前期比＋0．6pt上昇
  （自賠責保険を除くベースでは対前年横ばい）
- ▼ 保険引受利益は△102億円となり、前期比△15億円の減少
  主たる要因は以下のとおり。
  - ・自動車保険における発生保険金が増加したこと
    （ 自動車保険のインカードロスは前期比＋74億円の増加）
  - ・火災保険において、普通責任準備金繰入が増加したこと
- ▼ 資産運用損益は228億円と、有価証券評価損の減少を主因に、前期比＋279億円
- ▼ 以上の結果、経常利益は100億円となり、前期比＋269億円増加
- ▼ 特別損益は価格変動準備金が前年度取崩し（64億円）から繰入（6億円）に転じたこと、
  経営統合関係費用57億円を計上したことにより△64億円となり、前期比△125億円の減少
- ▼ 当期純利益は30億円となり、前期比＋97億円の増益

ニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2008年度	2009年度	増収率
火 災	470	511	8.7%
海 上	54	45	△16.2%
傷 害	291	283	△2.7%
自 動 車	1,588	1,606	1.1%
自 賠 責	305	281	△7.8%
そ の 他	399	398	△0.2%
合 計	3,109	3,126	0.6%
除く自賠責	2,804	2,845	1.5%

正味損害率

	2008年度	2009年度	前期比
火 災	39.0%	38.7%	△0.3pt
海 上	57.7%	72.9%	15.2pt
傷 害	58.2%	61.9%	3.7pt
自 動 車	73.2%	75.1%	1.9pt
自 賠 責	99.9%	105.9%	6.0pt
そ の 他	60.6%	60.0%	△0.6pt
合 計	67.4%	68.8%	1.4pt
除く自賠責	63.8%	65.1%	1.3pt

インカードロス

（億円）

	2008年度	2009年度	前期比
インカードロス（除く損調費）	1,936	1,987	50
自然災害	25	52	26
自然災害以外	1,911	1,935	23

※インカードロス＝正味支払保険金＋普通備金積増＋IBNR備金積増

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 正味収入保険料

・「火　災」は、長期契約の増加などにより、前期比＋8．7%の増収
・「海　上」は、積荷保険が不況による荷動き不振により減収となり、前期比△16．2%の減収
・「傷　害」は、団体長期障害所得補償や団体医療は増収したものの、その他の個人分野で減収し、前期比△2．7%の減収
・「自動車」は、契約件数が伸びていることおよび2009年6月の料率改定（引上げ）により保険料単価も横ばいとなり、前期比＋1．1%の増収
・「自賠責」は、2008年4月の料率改定（引下げ）の影響により、前期比△7．8%の減収

▼ 正味損害率

・「火 災」は、保険料は大幅に増収したものの、台風等の自然災害による支払いも増加したことなどから、損害率は△0．3ptの低下
・「傷 害」は、死亡事故等の保険金支払の増加などにより支払保険金が増加したことに加え、保険料が減収となったことにより、前期比＋3．7ptの上昇
・「自動車」は、事故受付件数の増加等により支払保険金が増加し、前期比＋1．9ptの上昇

＜ 当期発生の自然災害 ＞　（億円）

	2008年度			2009年度		
	正味保険金	支払備金	合計	正味保険金	支払備金	合計
火災	14	2	17	36	6	42
海上	0	0	0	0	0	0
自動車	5	0	5	5	0	5
その他	1	0	2	2	2	4
合計	21	3	25	43	8	52

ニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
保険引受社費	543	515	△28
損害調査費	176	180	4
その他	40	37	△2
社費合計	760	734	△26
人件費	360	356	△3
物件費	364	342	△21
税金・拠出金等	35	35	0

事業費率

	2008年度	2009年度	
			前期比
正味手数料率	17.1%	17.3%	0.2pt
正味社費率	17.5%	16.5%	△1.0pt
正味事業費率	34.6%	33.8%	△0.8pt
同　（除く自賠責）	35.8%	34.5%	△1.3pt

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 社費合計は、前年同期より△26億円減少し734億円

▼ 経営品質革新のための投資を継続している一方で、経費の効率的支出に努めた結果、
人件費が前期比△3億円、物件費が前期比△21億円

▼ 正味事業費率は33．8%　前期比△0．8ptの減少

・正味手数料率　17．3%（前期比＋0．2pt）（自賠責保険の料率引き下げにより手数料率は上昇）

・正味社費率　　16．5%（前期比△1．0pt）

▼ 除く自賠責ベースの正味事業費率は34．5%、前期比△1．3ptの減少

ニッセイ同和損保（単体）：資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
グロス利配収入	238	211	△ 27
積立保険料等運用益振替	83	77	△ 6
ネット一般利配収入	155	134	△ 21
有価証券売却損益	57	179	121
有価証券評価損	△ 190	△ 51	138
有価証券償還損益	△ 15	△ 16	△ 1
金融派生商品損益	△ 31	△ 3	28
その他運用損益	△ 27	△ 13	13
資産運用損益	△ 51	228	279

グロス利配収入の主な内訳

（億円）

	2008年度	2009年度	
			前期比
公社債	47	44	△ 2
株式	73	68	△ 4
外国証券	87	78	△ 9
その他有価証券	4	0	△ 3
貸付金	8	7	△ 0
不動産	8	7	△ 0
その他	9	2	△ 6
合計	238	211	△ 27

運用資産別構成比

（億円）

	2009年度末	
		構成比
公社債	3,009	31.1%
株式	3,029	31.3%
外国証券	2,225	23.0%
その他有価証券	104	1.1%
貸付金	366	3.8%
不動産	488	5.0%
その他	462	4.8%
合計	9,684	100.0%

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ グロス利配収入は、外債利息や株式配当金の減少を主因に前期比△27億円の減少
  積立保険料等運用益振替が、前期比△6億円減少したことから、
  ネット一般利配収入は、前期比△21億円の減少
- ▼ キャピタル損益については、有価証券評価損が前期比△138億円の減少
- ▼ 有価証券売却損益は前期比＋121億円の増加
- ▼ 以上の結果、資産運用損益は228億円となり、前期比＋279億円の増加

【参考資料】
2010年度決算(通期)見込

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上(単体)	28ページ
三井住友海上(単体): 種目別保険料・損害率	29ページ
三井住友海上(単体): 社費・事業費率	30ページ
三井住友海上(単体): 資産運用	31ページ
三井住友海上の海外子会社	32ページ
あいおいニッセイ同和損保(単体)	33ページ
あいおいニッセイ同和損保(単体): 種目別保険料・損害率	34ページ
あいおいニッセイ同和損保(単体): 社費・事業費率	35ページ
あいおいニッセイ同和損保(単体): 資産運用	36ページ
あいおいニッセイ同和損保の海外子会社	37ページ
三井住友海上きらめき生命	38ページ
あいおい生命	39ページ
三井住友海上メットライフ生命	40ページ

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

三井住友海上（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2009年度	2010年度	
			前期比
正味収入保険料	12,037	12,280	243
正味保険料 増収率	△2.9%	2.0%	4.9pt
正味損害率	70.3%	68.0%	△2.3pt
正味事業費率	34.5%	34.4%	△0.1pt
コンバインド・レシオ	104.8%	102.4%	△2.4pt
インカードロス	7,526	7,407	△120
保険引受利益	△159	△90	69
資産運用損益	577	599	22
経常利益	357	470	112
特別損益	△26	△134	△107
当期純利益	254	260	5
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	△2.0%	2.1%	4.1pt
正味損害率	65.7%	63.2%	△2.5pt
正味事業費率	35.8%	35.8%	0.0pt
コンバインド・レシオ	101.5%	99.0%	△2.5pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース。

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 正味収入保険料は、前期比＋243億円、＋2．0%の増収の1兆2，280億円

- ▼ 正味損害率は、前期比△2．3pt改善の68．0%、自賠責を除くベースでは、前期比△2．5ptの63．2%
- ▼ 正味事業費率は、前期比△0．1ptの34．4%
- ▼ コンバインド・レシオは102．4%と前期比△2．4pt低下　自賠責を除くベースでは99．0%
- ▼ 保険引受利益は、前期比＋69億円となる△90億円を見込む。

- ▼ 資産運用損益は、前期比＋22億円の599億円

- ▼ 経常利益は、保険引受利益の改善、資産運用損益の増加により、前期比＋112億円の470億円
- ▼ 特別損益は、△134億円
  統合関連費用、不動産関連費用等の一時的な費用負担を見込む。
- ▼ 当期純利益は、前期比＋5億円の260億円

三井住友海上(単体): 種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)	
			増収率
火 災	1,794	1,858	3.5%
海 上	519	523	0.8%
傷 害	1,294	1,324	2.3%
自 動 車	5,367	5,445	1.4%
自 賠 責	1,346	1,360	1.0%
そ の 他	1,715	1,770	3.2%
合 計	12,037	12,280	2.0%
除く自賠責	10,690	10,920	2.1%

正味損害率

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
火 災	43.3%	46.1%	2.8pt
海 上	61.7%	54.4%	△7.3pt
傷 害	62.9%	60.9%	△2.0pt
自 動 車	73.4%	72.9%	△0.5pt
自 賠 責	107.3%	106.7%	△0.6pt
そ の 他	68.2%	55.3%	△12.9pt
合 計	70.3%	68.0%	△2.3pt
除く自賠責	65.7%	63.2%	△2.5pt

インカードロス

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
インカードロス(除く損調費)	7,526	7,407	△120
自然災害	156	150	△7
自然災害以外	7,370	7,257	△113

※インカードロス=正味支払保険金+普通備金積増+IBNR備金積増

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 正味収入保険料は、景気の緩やかな回復に加え、住友生命提携による増収もあり、全種目で増収を見込む。

▼ 正味損害率は、前期比△2. 3ptの68. 0%を見込む。

▼ 除く自然災害ベースの正味損害率は以下の通り。

火災	:	39. 9%(前期比+ 2. 2pt)
海上	:	54. 4%(前期比△ 7. 2pt)
傷害	:	60. 9%(前期比△ 2. 0pt)
自動車	:	72. 5%(前期比△ 0. 5pt)
自賠責	:	106. 7%(前期比△ 0. 6pt)
その他	:	54. 7%(前期比△ 12. 9pt)
合計	:	66. 8%(前期比△ 2. 4pt)

▼ 自然災害は150億円を織り込む(前期比△7億円)。
火災:115億円、自動車:25億円、その他:10億円

▼ インカードロスは、前期比△120億円の減少を見込む。

三井住友海上(単体): 社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
保険引受社費	2,078	2,075	△ 4
損害調査費	744	754	9
その他	110	98	△ 13
社費合計	2,934	2,927	△ 7
人件費	1,565	1,588	22
物件費	1,230	1,204	△ 27
税金・拠出金等	137	135	△ 3

事業費率

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
正味手数料率	17.2%	17.5%	0.3pt
正味社費率	17.3%	16.9%	△0.4pt
正味事業費率	34.5%	34.4%	△0.1pt
同 (除く自賠責)	35.8%	35.8%	0.0pt

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 社費合計は、前期比△7億円の2，927億円を見込む。

▼ 事業費率は、前期比△0．1pt改善の34．4%

・正味手数料率　17．5%(前期比＋0．3pt)

・正味社費率　16．9%(前期比△0．4pt)

▼ 除く自賠責ベースの事業費率は前期比同水準の35．8%

・正味手数料率　18．8%(前期比＋0．3pt)

・正味社費率　17．0%(前期比△0．4pt)

三井住友海上(単体): 資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
グロス利配収入	1,174	1,062	△ 112
積立保険料等運用益振替	540	492	△ 48
ネット一般利配収入	634	570	△ 64
有価証券売却損益	2	160	158
有価証券評価損	△ 48	△ 25	24
有価証券償還損益	△ 21	△ 8	13
金融派生商品損益	252	31	△ 221
その他	△ 241	△ 129	112
資産運用損益	577	599	22

グロス利配収入の主な内訳

(億円)

	2009年度	2010年度(見込)	
			前期比
公社債	294	287	△ 7
株式	273	282	8
外国証券	291	216	△ 75
その他有価証券	44	39	△ 6
貸付金	143	128	△ 16
不動産	74	70	△ 5
その他	53	42	△ 11
合計	1,174	1,062	△ 112

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ グロス利配収入は、外国証券、貸付金等で減少し、前期比△112億円の1，062億円
- ▼ ネット一般利配収入は、前期比△64億円の570億円
- ▼ 有価証券売却損益は、前期比＋158億円の増加の160億円
- ▼ 有価証券評価損は、前期比＋24億円の△25億円
- ▼ 金融派生商品損益は、クレジット・デリバティブの時価評価益の減少を主因に前期比△221億円の31億円
- ▼ その他は、投資信託の解約損の減少により、前期比＋112億円

三井住友海上の海外子会社

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）		
			前期比	増収率
子会社　合計	1,587	1,700	112	7.1%
アジア	652	733	81	12.4%
欧州	477	482	5	1.0%
米州	249	279	29	11.7%
再保険	208	206	△ 3	△ 1.5%

当期純利益

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）	
			前期比
子会社　合計	202	164	△ 38
アジア	91	70	△ 22
欧州	10	14	4
米州	19	22	3
再保険	80	58	△ 23

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜正味収入保険料＞

▼ 海外子会社の正味収入保険料は、アジアを中心に増収を見込み、前期比＋112億円の1，700億円

＜当期純利益＞

▼ 海外子会社の当期純利益は、前期に自然災害ロスが少なかった再保険子会社で今期一定のロスを見込む等により、前期比△38億円の164億円

あいおいニッセイ同和損保（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2009年度（2社合算ベース）	2010年度（見込）	前期比
正味収入保険料	11,067	11,230	163
正味保険料 増収率	△1.9%	1.5%	3.4pt
正味損害率	67.7%	66.8%	△0.9pt
正味事業費率	35.0%	36.2%	1.2pt
コンバインド・レシオ	102.7%	103.0%	0.3pt
インカードロス	6,992	6,920	△72
保険引受利益	△143	△180	△36
資産運用損益	615	423	△192
経常利益	474	260	△214
特別損益	△168	△248	△80
当期純利益	212	20	△192
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	△0.9%	1.7%	2.6pt
正味損害率	63.3%	62.5%	△0.8pt
正味事業費率	35.8%	37.3%	1.5pt
コンバインド・レシオ	99.1%	99.8%	0.7pt

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

2010年度見込みの前提：
2009年度はあいおい損害保険（株）とニッセイ同和損害保険（株）の実績の単純合算値。
2010年度はニッセイ同和損害保険（株）の上期業績予想とあいおいニッセイ同和損害保険（株）（2010年10月1日合併予定）単体の通期業績予想の単純合算値。

- ▼ 正味収入保険料は、前期比＋163億円、＋1．5%の増収の1兆1，230億円
- ▼ 正味損害率は、前期比△0．9pt改善し66．8%、自賠責を除くベースでは前期比△0．8pt低下の62．5%
- ▼ 正味事業費率は、前期比＋1．2pt上昇し36．2%
- ▼ コンバインド・レシオは前期比＋0．3pt上昇し103．0%　自賠責を除くベースでは99．8%
- ▼ 保険引受利益は自然災害の前提を前年実績対比で増額としたこと、合併関連に係る事業費の増加等により前期比△36億円減少し△180億円
- ▼ 資産運用損益は利配キャピタルゲインの減少等の影響を見込み423億円、前期比△192億円 の減少
- ▼ 以上の結果、経常利益は260億円、前期比△214億円下回る。
- ▼ 特別損益は合併関連費用等により△248億円
- ▼ 当期純利益は20億円となり、前期比△192億円下回る。

あいおいニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2009年度（2社合算）	2010年度（見込）	増収率
火 災	1,532	1,606	4.8%
海 上	82	76	△8.0%
傷 害	733	739	0.8%
自 動 車	6,264	6,391	2.0%
自 賠 責	1,377	1,374	△0.2%
そ の 他	1,076	1,044	△3.1%
合 計	11,067	11,230	1.5%
除く自賠責	9,690	9,856	1.7%

正味損害率

	2009年度（2社合算）	2010年度（見込）	前期比
火 災	38.7%	39.4%	0.7pt
海 上	73.1%	65.2%	△7.9pt
傷 害	56.3%	51.9%	△4.4pt
自 動 車	69.1%	67.1%	△2.0pt
自 賠 責	99.1%	98.2%	△0.8pt
そ の 他	68.2%	76.7%	8.5pt
合 計	67.7%	66.8%	△0.9pt
除く自賠責	63.3%	62.5%	△0.8pt

インカードロス

（億円）

	2009年度（2社合算）	2010年度（見込）	前期比
インカードロス（除く損調費）	6,992	6,920	△72
自然災害	115	130	15
自然災害以外	6,877	6,790	△87

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 正味収入保険料は2009年度に実施した料率改定の効果等により、自動車保険、火災保険を中心に＋1．5%の増収を見込む。

・「火 災」は、前期比＋4．8%の増収
・「海 上」は、前期比△8．0%の減収
・「傷 害」は、前期比＋0．8%の増収
・「自動車」は、前期比＋2．0%の増収
・「その他」は前期比△3．1%の減収

▼ 正味損害率は前期比△0．9ptの低下の66．8%を見込む
除く自然災害ベースの正味損害率は、以下の通り

火 災	：	34．4%（前期比＋1．7pt）
海 上	：	65．2%（前期比△7．9pt）
傷 害	：	51．9%（前期比△4．4pt）
自動車	：	66．3%（前期比△2．5pt）
自賠責	：	98．2%（前期比△0．8pt）
その他	：	76．7%（前期比＋9．3pt）
合計	：	65．7%（前期比△1．0pt）

▼ 自然災害は130億円を織り込む。
火災：80億円、自動車：50億円

▼ インカードロスは、前期比△72億円の減少を見込む。

あいおいニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

（億円）

	2009年度（2社合算）	2010年度（見込）	
			前期比
保険引受社費	1,932	2,050	118
損害調査費	618	569	△49
その他	114	96	△18
社費合計	2,664	2,715	51
人件費	1,315	1,367	52
物件費	1,224	1,213	△11
税金・拠出金等	125	134	9

事業費率

	2009年度（2社合算）	2010年度（見込）	
			前期比
正味手数料率	17.5%	18.0%	0.5pt
正味社費率	17.5%	18.2%	0.7pt
正味事業費率	35.0%	36.2%	1.2pt
同　（除く自賠責）	35.8%	37.3%	1.5pt

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

▼ 社費合計は、前年比＋51億円の2，715億円を見込む。

▼ 正味事業費率は36．2%　前期比＋1．2ptの上昇

・正味手数料率　18．0%、前期比＋0．5ptの上昇

・正味社費率　18．2%、前期比＋0．7ptの上昇

▼ 除く自賠責ベースの正味事業費率は前期比＋1．5ptの37．3%

・正味手数料率　19．3%（前期比＋0．4pt）

・正味社費率　18．1%（前期比＋1．1pt）

あいおいニッセイ同和損保（単体）：資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

（億円）

	2009年度（2社合算）	2010年度（見込）	
			前期比
グロス利配収入	698	635	△ 64
積立保険料等運用益振替	261	255	△ 6
ネット一般利配収入	437	380	△ 58
その他キャピタル損益等	178	43	△ 135
資産運用損益	615	423	△ 192

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ グロス利配収入は、株式の配当減などにより前期比△64億円の635億円
- ▼ ネット一般利配収入は、前期比△58億円の380億円
- ▼ 利配収入以外は全体で43億円を見込む。

あいおいニッセイ同和損保の海外子会社

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）		
			前期比	増収率
子会社　合計	174	246	72	41.2%
アジア	3	21	17	466.8%
欧州	170	171	0	0.2%
米州	-	54	54	-

当期純利益

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）	
			前期比
子会社　合計	△ 29	△ 14	15
アジア	△ 1	△ 2	△ 1
欧州	△ 28	△ 16	12
米州	-	3	3

※上記は連結対象子会社数値

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

＜正味収入保険料＞

▼ 海外子会社の正味収入保険料は、アジアでは中国子会社等の事業拡大、米州では米国子会社が連結対象となることなどにより、前期比＋72億円の246億円を見込む。

＜当期純利益＞

▼ 海外子会社の当期純利益は、アンダーライティング・料率政策および損調体制強化により収支改善を図り、前期比＋15億円の△14億円を見込む。

三井住友海上きらめき生命

三井住友海上きらめき生命

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）	
			前期比
新契約高	15,872	20,200	27.3%
保有契約高	94,447	102,800	8.8%
保有契約年換算保険料	1,945	2,000	2.8%
当期純利益	0	△ 28	△ 28
実質当期純利益 ※	28	33	5

※標準責任準備金積立前の当期純利益

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 新契約高は、前期比＋27%の増加で2兆円台を見込む。新生保推進体制のさらなる強化や商品改定等により増加を見込む。
- ▼ 保有契約高は、前期比＋8．8%の増加により10兆円台到達を見込む。
- ▼ 保有契約年換算保険料は、前期比＋55億円、＋2．8%の増収を見込む。
- ▼ 当期純利益は、今期に標準責任準備金の達成に向けて未達額の一括積立を行うため、△28億円の赤字

あいおい生命

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）	
			前期比
新契約高(除く団保)	10,594	10,260	△ 3.2%
保有契約高	81,657	88,000	7.8%
保有契約 年換算保険料	735	750	2.0%
当期純利益	13	5	△ 8

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 新契約高は、損保チャネルによるクロスセル・多店舗展開プロによる販売強化を見込み、引き続き1兆円強の水準を見込む。
- ▼ 保有契約高は、解約・失効率改善などにより前期比＋7．8%の増加を見込む。
- ▼ 保有契約年換算保険料は、前期比＋2．0%の増加を見込む。
- ▼ 当期純利益は、再保険スキームの変更など昨年度の特殊要素を除き5億円を見込む。

三井住友海上メットライフ生命

三井住友海上メットライフ生命

（億円）

	2009年度	2010年度（見込）	
			前期比
新契約高	4,081	4,088	0.2%
保有契約高	31,375	33,900	8.0%
保険料	4,436	4,500	1.4%
当期純利益（当社持分）	44	35	△ 9

Copyright MS&AD Insurance Group Holdings, Inc. All rights reserved.

- ▼ 新契約高は、前期比＋0．2%の増加を見込む。
- ▼ 保有契約高は、前期比＋8．0%の増加を見込む。
- ▼ 保険料は、金融危機以降、販売マーケット規模が縮小する厳しい環境の中、定額終身の発売による増収を見込み、前期比＋64億円の4，500億円
- ▼ 当期利益（当社持分）は、前期の定額年金の評価益の反動もあり、前期比△9億円減の35億円

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社　広報・IR部

TEL: 03-6202-5268　FAX: 03-6202-6882

e-mail : ms_ad_ir@ms-ad-hd.com

http://www.ms-ad-hd.com/ir/index.html